



令和元年度 金山の未来を考える会議

報告書

令和2年1月

INDEX

金山の未来を考える会議の概要	2
金山の未来を考える会議の全体フレーム（フロー図）	3
金山の未来を考える会議の参加者募集チラシ	4
第1回金山の未来を考える会議	5
第2回金山の未来を考える会議	21
第3回金山の未来を考える会議	29
第4回金山の未来を考える会議	41
第5回金山の未来を考える会議	51
第6回金山の未来を考える会議	59
講師による全体講評	65
奥付	67

〈1〉会議の目的

- 人口減少という地域課題に立ち向かい、住民自らが自立して地域づくりを行うための基盤づくりを行う。
- 新たな地域づくりの指針を作り、これからの地域づくりの具体的なアクションにつなげる。

〈2〉名称

令和元年度 金山の未来を考える会議

〈3〉会場

金山町開発センター 3階会議室

〈4〉主な参加対象者

金山町民

〈5〉会議のポイント（ねらい）

- 住民が主体となってまちづくり計画をつくる
- 金山町のたからもの（まちづくりの種）探しを行う
- 金山町の未来を予測する
- 住民同士のふれあいを推進する

〈6〉講師のプロフィール

総務省地域力創造アドバイザー 大滝 聡

武蔵野美術大学卒。漆工芸や彫刻などのアーティスト活動を続けた後、1990年（有）オム・クリエイションを設立。グラフィックデザイン、パブリックアートデザイン、まちづくり（コミュニティデザイン）等に携わる。

1999年に広域圏の中間支援組織、都岐沙羅パートナーズセンターを設立（2007年地方自治法60周年記念総務大臣表彰受賞、2015年ふるさとづくり大賞・団体表彰受賞、2017年第7回地域再生大賞・大賞受賞）。※2002年にNPO法人化。

2000年には県内の有志が集まり、まちづくりの人材育成や現場支援を行うための「まちづくり学校」を設立（2013年第2回まちづくり法人国土交通大臣表彰「まちづくりの担い手サポート部門」受賞、2017年地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰受賞）。※2001年にNPO法人化。

また個人としても、まちづくりの現場支援や、まちづくりの人材育成、コミュニティビジネスの起業家育成・支援、各種まちづくりデザインなどを行っている。

現在（2019年）

総務省地域力創造アドバイザー
新潟県地域づくりアドバイザー
石巻市地域自治システムアドバイザー
東北電力まちづくりパートナー

NPO法人まちづくり学校 代表理事（校長）
NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター 理事
長岡造形大学 非常勤講師
有限会社オム・クリエイション 取締役

〈7〉開催日程と会議のテーマ

2019年6月～11月 計6回（全11日間）

※回数は夜の会議と翌朝の会議（昼の会議）をセットにして1回と数えている





●開催日時と主なテーマ（全6回）

第1回 日常の困りごと、地域の宝物ランキング

6月7日（金） 18:30～20:30

8日（土） 9:30～12:00

- 第2回 金山町の宝物の探し（まちあるき）
7月13日（土） 9:30～16:30
- 第3回 金山町の未来像を描く
8月23日（金） 18:30～20:30
24日（土） 9:30～12:00
- 第4回 地域づくりの新たなアイデアを生み出す
9月13日（金） 18:30～20:30
14日（土） 9:30～12:00
- 第5回 アイディアを具体的な事業にする
10月21日（月） 18:30～20:30
22日（火・祝） 9:30～12:00
- 第6回 実行スケジュールづくりと意見交換
11月8日（金） 18:30～20:30
9日（土） 9:30～12:00

- 会 場：金山町開発センター
●講 師：総務省地域力創造アドバイザー
大滝 聡氏（新潟県村上市在住）
●対 象：金山町民



- ＜ねんし＞
- 住民が主体となってまちづくり計画をつくる
 - 金山町の宝物（まちづくりの種）探しを行う
 - 金山町の未来を予想する
 - 住民同士のふれあいを推進する

町にはたくさん宝物（資源）がある一方で、一刻も早く解決したい問題がいくつも同居しています。まちづくりは常にその両方の視点を持つて進めていく必要があります。

今回の「金山の未来を考える会議」では、これからの時代に即したまちづくりを展開するための計画を、住民の皆さんと一緒に、楽しみながら考えていきます。

この会議は、若い方々から高齢者に至るまで、幅広くどなたでもお気軽にご参加いただけます。元号も新たに「令和」となった今、ぜひみんなで新しいまちの姿を作りましょう。

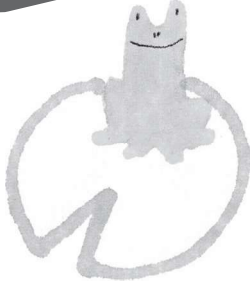
■主催：金山町

■参加申込み・お問い合わせ先：金山町役場 復興観光課 復興政策係 TEL0241-54-5203 Fax0241-54-5335

住民への告知チラシ

第1回

第1回



2019年度

金山の未来を考える会議

日時：2019年6月7日（金）18：30～20：30

6月8日（土）9：30～12：00

会場：金山町開発センター

講師：総務省地域力創造アドバイザー 大滝 聡（新潟県村上市在住）

第1回の達成目標

- ・参加者それぞれの思いを出し合い、統合して理念をつくる
- ・地域の小さな困りごとと地域の宝物のベスト5を作成し共有する

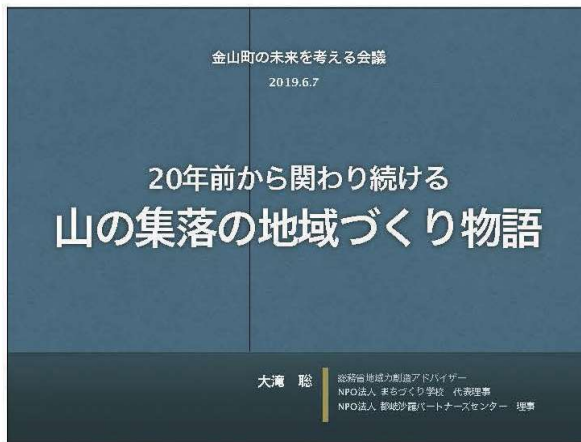
初日 2019年6月7日（金）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
18：30	開講挨拶（趣旨説明）、事業の流れ～第1回（7日と8日）のプログラム紹介	
18：40	ゆるやかな関係づくりゲーム～グループ編成	
19：00	事例紹介「20年関わり続ける山の集落の地域づくり物語」	
19：40	理念づくりワークショップ：テーマ「金山町をこれからどんなまちにしていきたいか」	
	①一人一人が相談をしないで、ご自分の思いをポストイットに書く	
	②それぞれの思いをグループ内で発表し合い、全ての思いを共有する	
	③全員で話し合い、全ての思いが盛り込まれた統合文を作成する	
20：10	全体統合文のグループ発表	
20：20	全体確認	
20：30	終了	

2日目 2019年6月8日（土）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
9：30	昨日のふりかえり 本日のプログラム紹介	
9：40	理念の全体統合	
10：10	ワークショップ「地域の小さな困りごとと、地域の宝物ランキング」	
	①地域の小さな困りごとと地域の宝物の2つのテーブルをつくり、それぞれが席に着く	
	②それぞれのテーブルでテーマに沿った話し合いを行い、カードに記入していく	
	③20分で交代し、別なテーブルに移動し、同じ作業を行う	
	④それぞれのテーマのベスト5を決める	
11：30	ベスト5のグループ発表	
11：45	全体確認	
11：55	次回のご案内、連絡事項、他	
12：00	終了	

■講義&事例紹介「20 年関わり続ける山の集落の地域づくり物語」 講義スライド



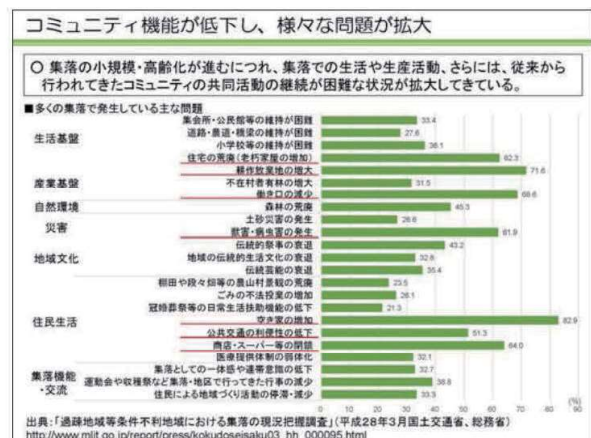
1



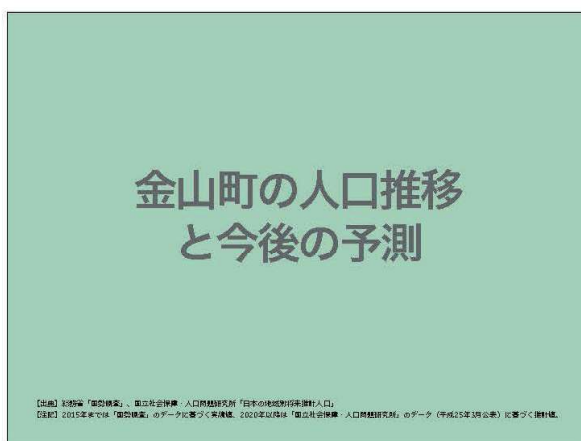
2



3



4



5

(全国市町村高齢化率ランキング)

順位	名称	高齢化率	65歳以上人口	総人口	県
1	飯館村	100%	41	41	福島
2	南牧村	60.49%	1,197	1,979	群馬
3	天龍村	59.05%	806	1,365	長野
4	川上村	58.72%	771	1,313	奈良
5	金山町	57.51%	1,259	2,189	福島
6	神流町	56.09%	1,096	1,954	群馬
7	大豊町	55.91%	2,215	3,962	高知
8	昭和村	54.84%	725	1,322	福島
9	上勝町	54.43%	841	1,545	徳島
10	仁淀川町	53.94%	2,994	5,551	高知
11	御枕村	53.89%	948	1,759	奈良

6



7



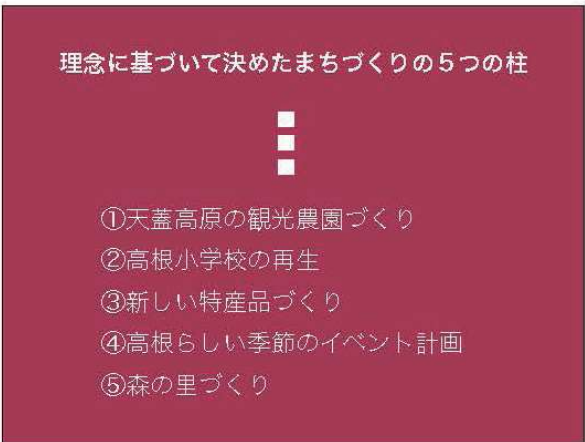
8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



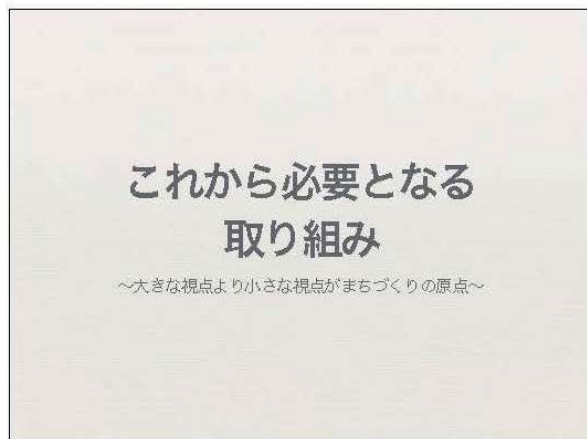
40



41



42



43

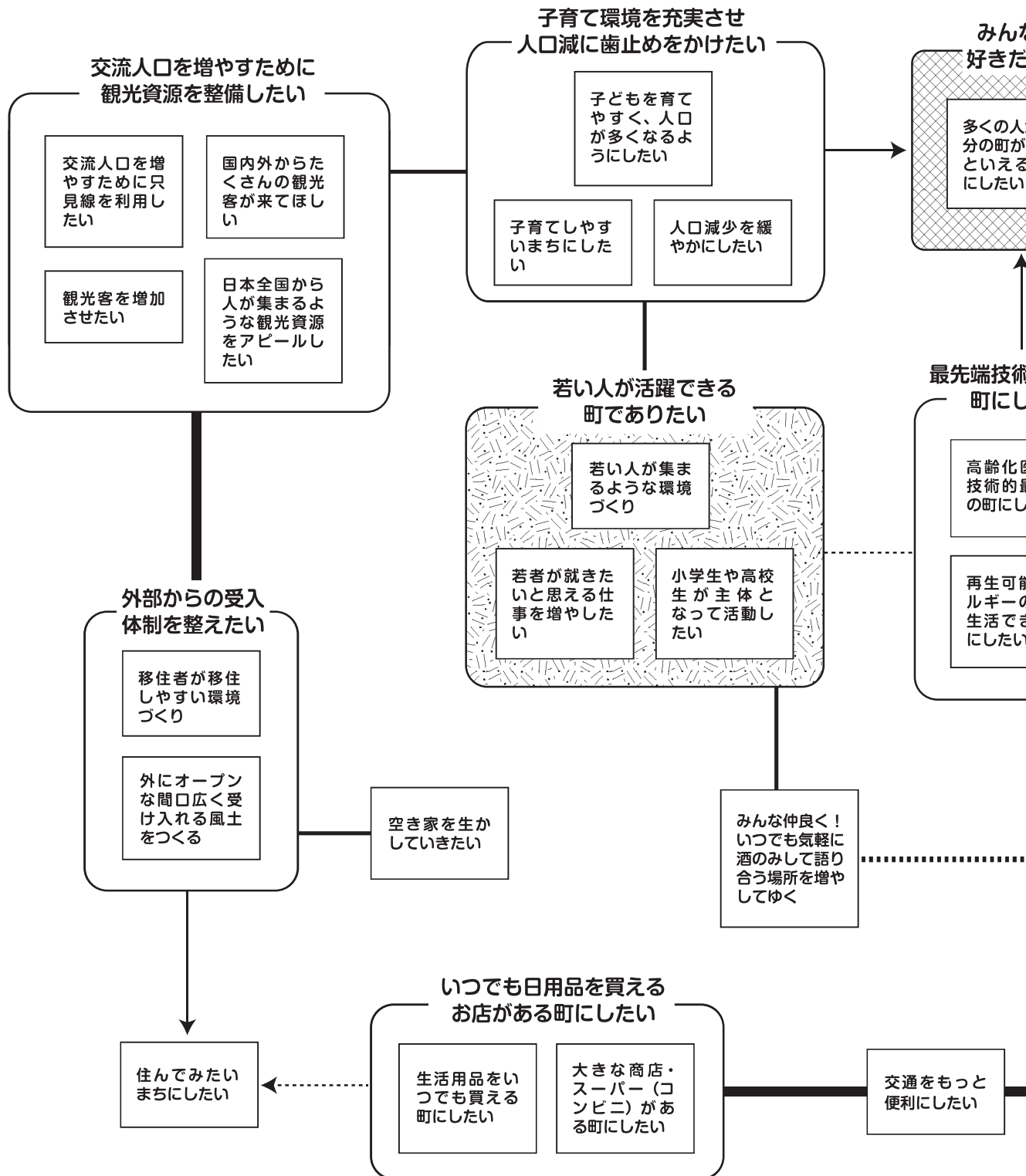


44



45

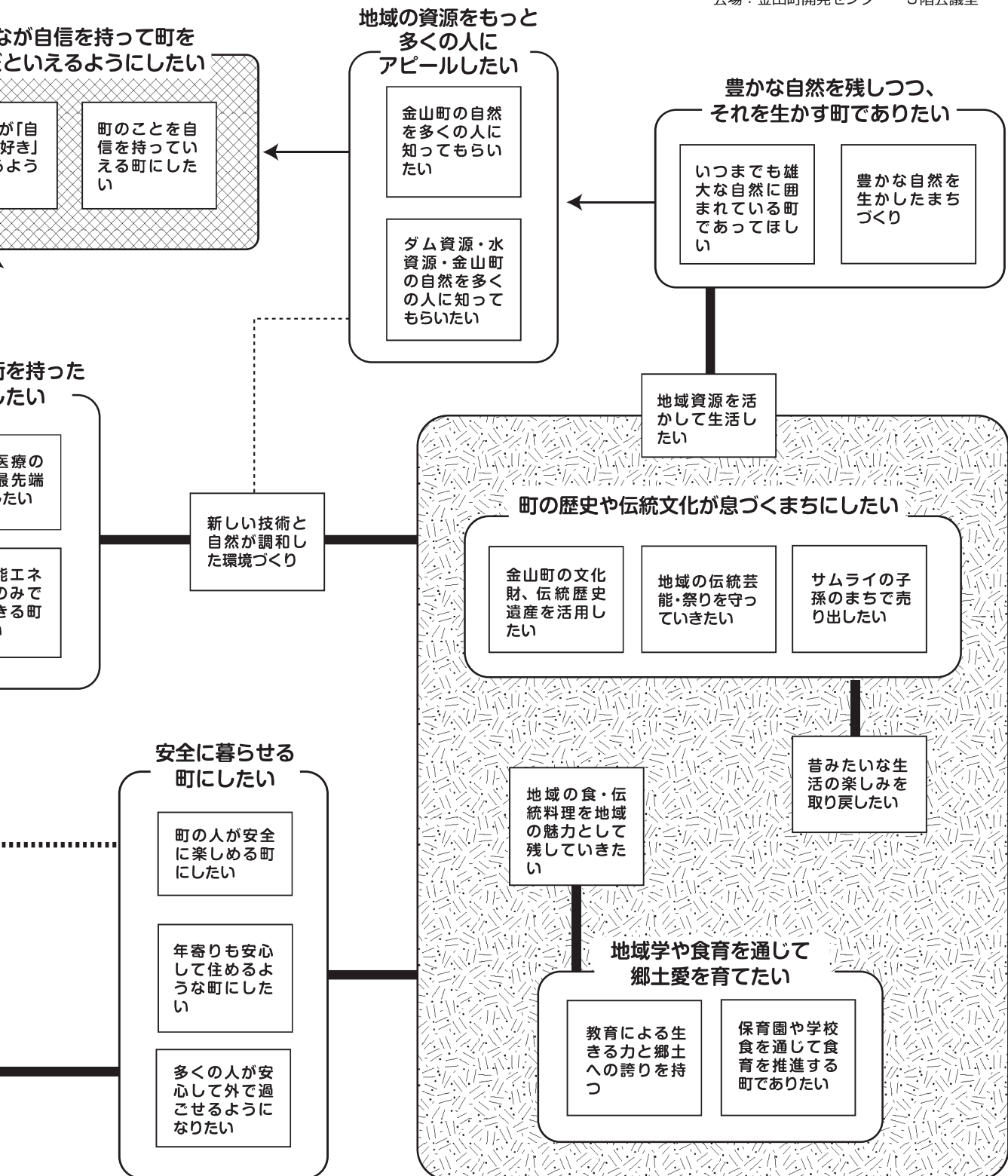
地域固有の資源を生かして新しい風を取り



まとめ「理念設定」 ～この金山をどんなまちにしたいか～

の入れ、豊かな生活を営める町をつくる

ワークショップ開催日：2019年6月7-8日
会場：金山町開発センター 3階会議室



■地域の宝もののランキングと宝物マップ

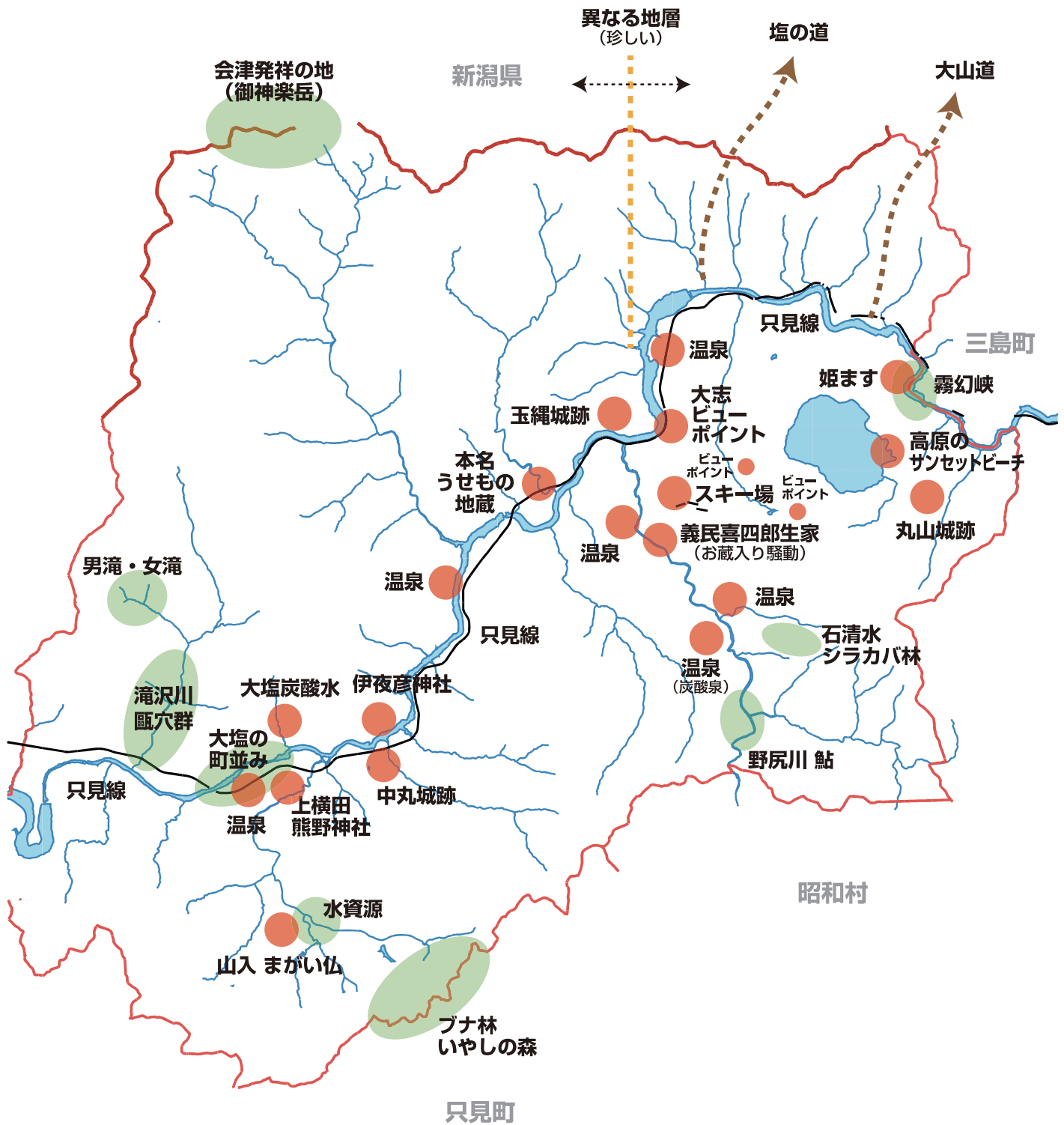
金山町の宝もの（地域資源）

No.	場所が特定できる資源	順位	No.	場所を特定できない資源	順位
1	炭酸水を含む温泉郡	1	1	自然の恵みと伝統食	1
2	沼沢湖	2	2	四季折々の風景	2
3	只見川の景観を含む自然遺産	3	3	古民家	3
4	発電所群	4	4	伝統技術（自然素材の工芸技術）	4
5	山城群（玉縄城、中丸城、丸山城）	5	5	希少動植物	5
6	雪形地形		6	普請活動	
7	会津発祥の地（御神楽岳）		7	集落の秋祭り	
8	地層が異なる大地		8	妖精	
9	大塩の町並み		9	山野草、野鳥、昆虫、モリアオガエル	
10	男滝・女滝		10	桐	
11	大塩炭酸水		11	雪	
12	滝沢川鮎穴群		12	賽ノ神の伝統行事	
13	只見線		13	豊富な山菜、キノコ	
14	山入まがい仏		14	サムライの町	
15	上横田の熊野神社		15	只見川の風景	
16	伊夜彦神社		16	クマやカモシカが見られる	
17	本名うせもの地蔵		17	川霧、山霧	
18	義民喜四郎成果（お蔵入り騒動）		18	きれいな星空	
19	務幻峡		19		
20	姫鱒		20		
21	食材（赤カボチャ、エゴマ油）		21		
22	野尻川の鮎		22		
23	スキー場		23		
24	大志ビューポイント		24		
25	ブナ林 いやしの森		25		
26	白樺林		26		
27	石清水		27		
28	高原のサンセットビーチ		28		
29	塩の道		29		
30	大山道		30		

第1回 金山の未来を考える会議

金山町の宝もの（地域資源）マップ

2019.6.8



■地域の中の小さな困りごとランキング

地域の中の小さな困りごと

No.	地域の中の小さな困りごと	ジャンル	順位
1	医療・福祉・教育サービスへの不安	行政サービス	1
2	普段からやっている店がない	日常の買物	1
3	老若男女集える場がない・文化施設や遊び場の欠如	拠点・サロン	2
4	住める空き家がない	空き家	2
5	交通の不便さ（タクシーや代行もない）	交通	3
6	コミュニティ機能の弱体化	コミュニティの弱体化	3
7	人足が不足している	人手不足	4
8	獣害がひどい	獣害・害虫被害	4
9	環境に対する意識が低い（各家庭の焼却炉の問題）	住民意識の低下	5
10	用水路に除雪した雪が入って溢れる	除雪	
11	個人の除雪がたいへん		
12	消雪設備の修理をしてほしい		
13	国道・町道の歩道の除雪が悪く歩きづらい		
14	草刈りが大変（刈る、片付け）	農作業	
15	カメムシがたいへん	獣害・害虫被害	
16	昼夜問わず道を歩けない（クマの被害が多い）		
17	子どもが少なく、寂しい	少子化	
18	子どもの遊び場がない（コミュニケーションが取れない）	拠点・サロン	
19	お母さんの集う場が少ない		
20	若い人が通えるような居酒屋が少ない		
21	観光客が集まる場がない（喫茶店等）		
22	週末にやっている店がない	日常の買物	
23	食品の卸が来ない		
24	コンビニがない（決済手続きができない）		
25	買物の場が少ない（ちょい高い）		
26	お土産がない	特産品	
27	キノコ・山菜・工芸素材の場所がわからない	ゴミの分別	
28	ゴミの分別をもっと細かくしてほしい		
29	高齢者宅の保健師の家庭訪問指導が十分でない	見守り	
30	隣近所の付き合いが希薄になっている（見守り）		
31	働く場の選択肢が少ない	職場	
32	高齢化が進んでおり、集落の共同作業に参加できない	コミュニティの弱体化	
33	幼児の医療施設がない	医療・文化施設	
34	宿泊施設がない		
35	町営プールがない		
36	文化施設が少ない		
37	通信インフラ（Wifi）が未整備	インフラ整備	
38	水洗化されていないトイレが多い		
39	只見線が開通することで代行バスがなくなり不便になる	只見線開通	
40	只見線が開通することでストロー現象が起きないか不安		
41	登記登録ができない	行政サービス？	

■第1回のスナップ



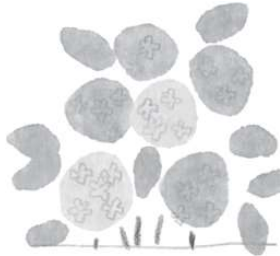
- (上) ゆるやかな関係づくりゲーム
- (中左) 理念設定のデータ出し
- (中右) 地域の困りごとと地域の宝物の検討風景
- (左下) 理念データの集約作業風景
- (右下) 地域の宝物のマップ作成

第2回

第2回

2019年度

金山の未来を考える会議



日時：2019年7月13日（土）9：30～16：30

会場：金山町開発センター

講師：総務省地域力創造アドバイザー 大滝 聡（新潟県村上市在住）

第2回の達成目標

- ・理念（金山をどのようなまちにしたいかという想いの集約）の完成
- ・机上では出なかった地域資源と困りごとを現地で把握し、共有する

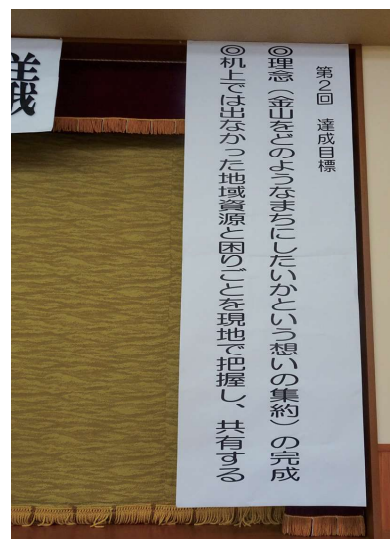
時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
09：30	前回のふりかえりと本日のプログラム紹介 理念案に関する意見交換、地域の小さな困りごとと地域の宝物の再整理	
09：50	フィールドにおける資源調査・困りごと調査の方法についての解説 資源調査の目的の再確認、使用する道具やシートの説明、等	
10：00	コースの紹介と確認～グループ編成 資源調査を行う2つのコースの紹介、行ってみたいコースによってグループ編成	
10：10	グループの作戦会議 チーム内の自己紹介、チェック項目の確認など	
10：15	まちあるき調査スタート 途中、昼食もグループ単位で済ませる	
14：15	会場に戻る～休憩 戻ってきたら撮ってきた写真の中から数枚を選んでプリントアウト	
14：30	グループのまとめ作業開始 ・第1回では出なかった地域資源の記録と整理→ベスト3を決定 ・第1回では気づかなかった地域の困りごとの記録と整理→ベスト3を決定	
16：00	グループ発表 各コースの発表時間は5分	
16：15	全体共有 各コースの調査に対する質疑応答、	
16：25	次回のお知らせ、連絡事項、他	
16：30	終了	

■フィールドワークを行う前の準備・確認作業

地域の宝物（隠れた資源）を探すためには町外の目が必要ということで、新潟県からまちづくりに関わる5名の方にも参加いただいた。

フィールドワーク調査の目的は、現場で地域づくりの種となる資源を探すこと、地域の中の困りごとを明確にすることにあり、そうした趣旨を理解していただいた上で、全体を2つのコース（沼沢・山梨ルート、大塩・山入ルート）に分けてチーム編成を行った。

チーム内では時間を管理するタイムキーパー、ルートを確認するナビゲーター、見つけた資源などを写真に収めるカメラマンなどの役割分担を行うと共に、全員が発見シートに見つけたものを記入するための記入方法などを解説した。



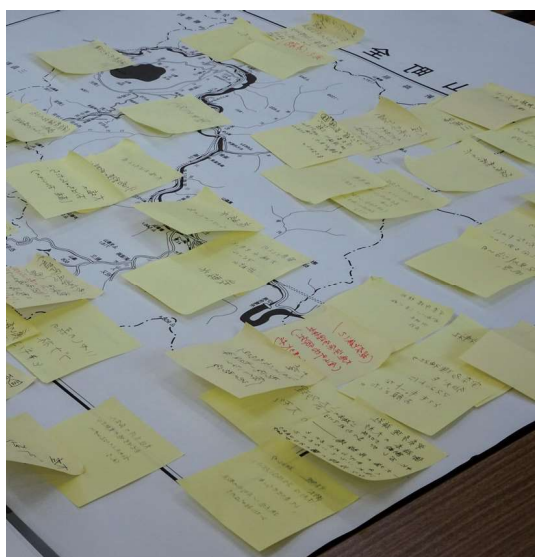
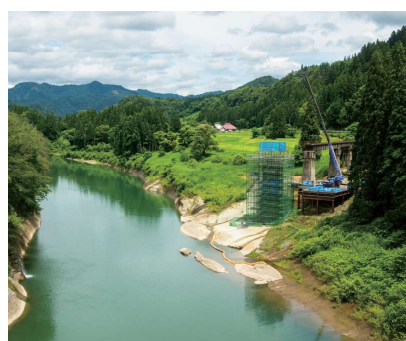
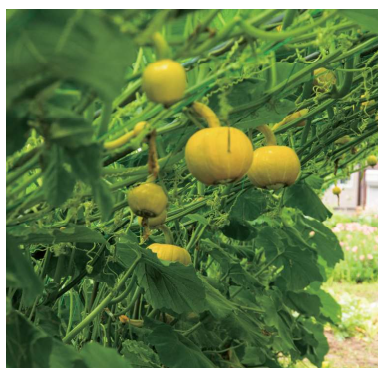
沼沢・玉梨ルート

時間	場所	所要時間
10:15	役場発	20分
10:35	第二沼沢発電所着	
	発電所内見学	1時間
11:35	第二沼沢発電所発	10分
11:45	休養村センター着	
	お昼	40分
12:25	休養村センター発	10分
12:35	広域基幹林道 沼沢側展望着	
	散策	10分
12:45	広域基幹林道 沼沢側展望発	5分
12:50	広域基幹林道 玉梨側展望着	
	散策	10分
13:00	広域基幹林道 玉梨側展望発	10分
13:10	しらかばの森着	
	散策	20分
13:30	しらかばの森発	25分
13:55	高屋敷跡着	
	散策	10分
14:25	高屋敷跡発	10分
14:35	小栗山喜四郎石碑着	
	散策	10分
14:45	小栗山喜四郎石碑発	5分
14:50	役場着	

大塩・山入ルート

時間	場所	所要時間
10:15	役場発	30分
10:45	大塩炭酸場着	
	散策（炭酸場～宇奈多理神社周辺）	1時間
11:45	大塩古民家着	40分
	お昼	
12:25	大塩古民家発	30分
12:55	山入 いやしの森着	
	散策	40分
13:35	山入 いやしの森発	15分
13:50	磨崖仏着	
	散策	10分
14:00	磨崖仏発	30分
14:30	役場着	

■第2回のスナップ（まちあるき調査風景）



地域の宝物(資源)と地域の困りごと ベスト5

沼沢・玉梨ルート

1/25000 1 km

地域の宝物(資源) ベスト5

① 広域基幹林道



② 沼沢湖 (周辺)



③ 小栗山 (喜四郎)



④ 霧幻峡 (の渡し)



⑤ 只見線とダム



地域の困りごとベスト5

① 広域基幹林道の整備不足



② 沼沢湖周辺の環境整備



③ 城跡の整備



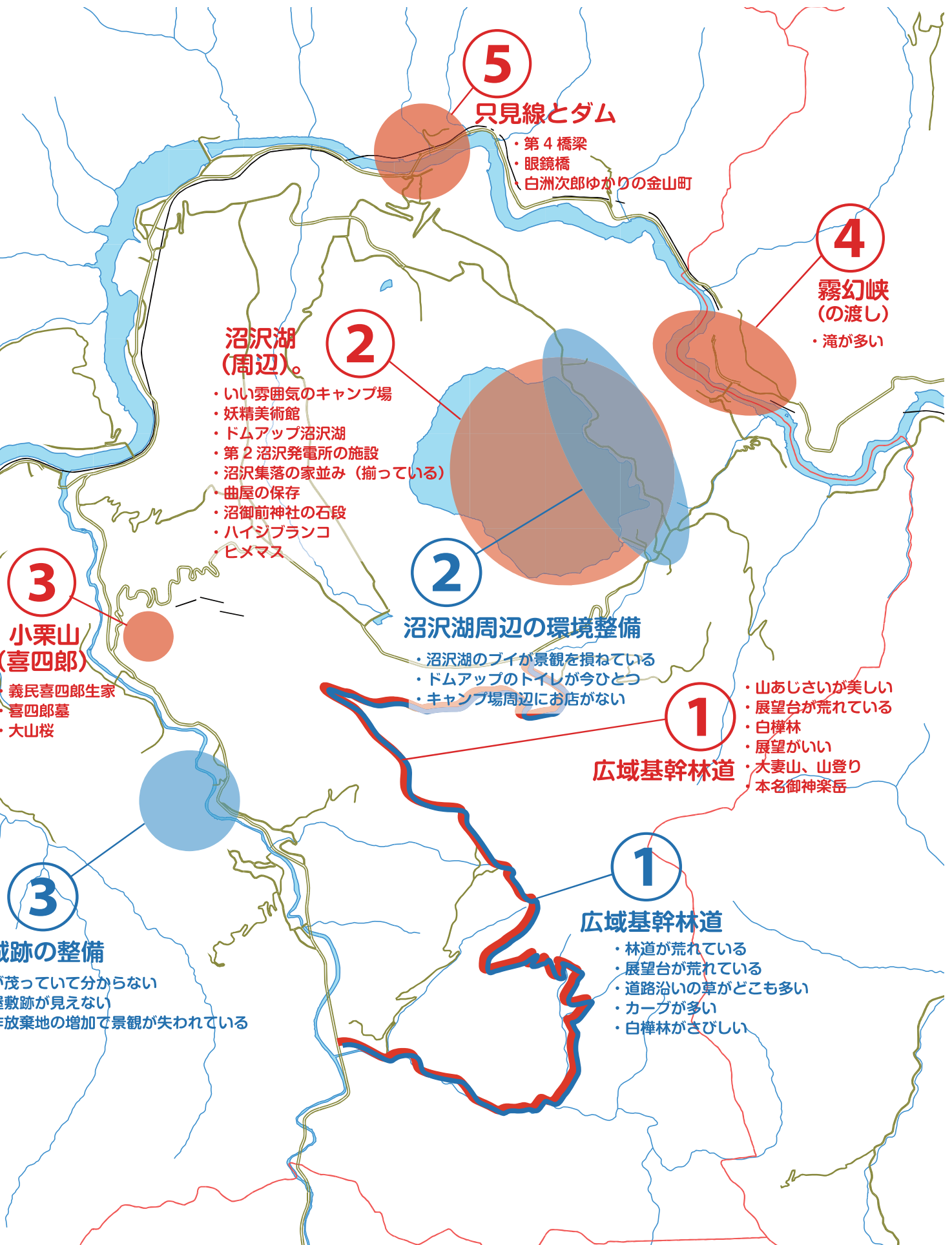
エリア全体

④ 空き家の所有者の意識

⑤ 若い人の担い手不足

坂
・木か
・高屋
・耕作

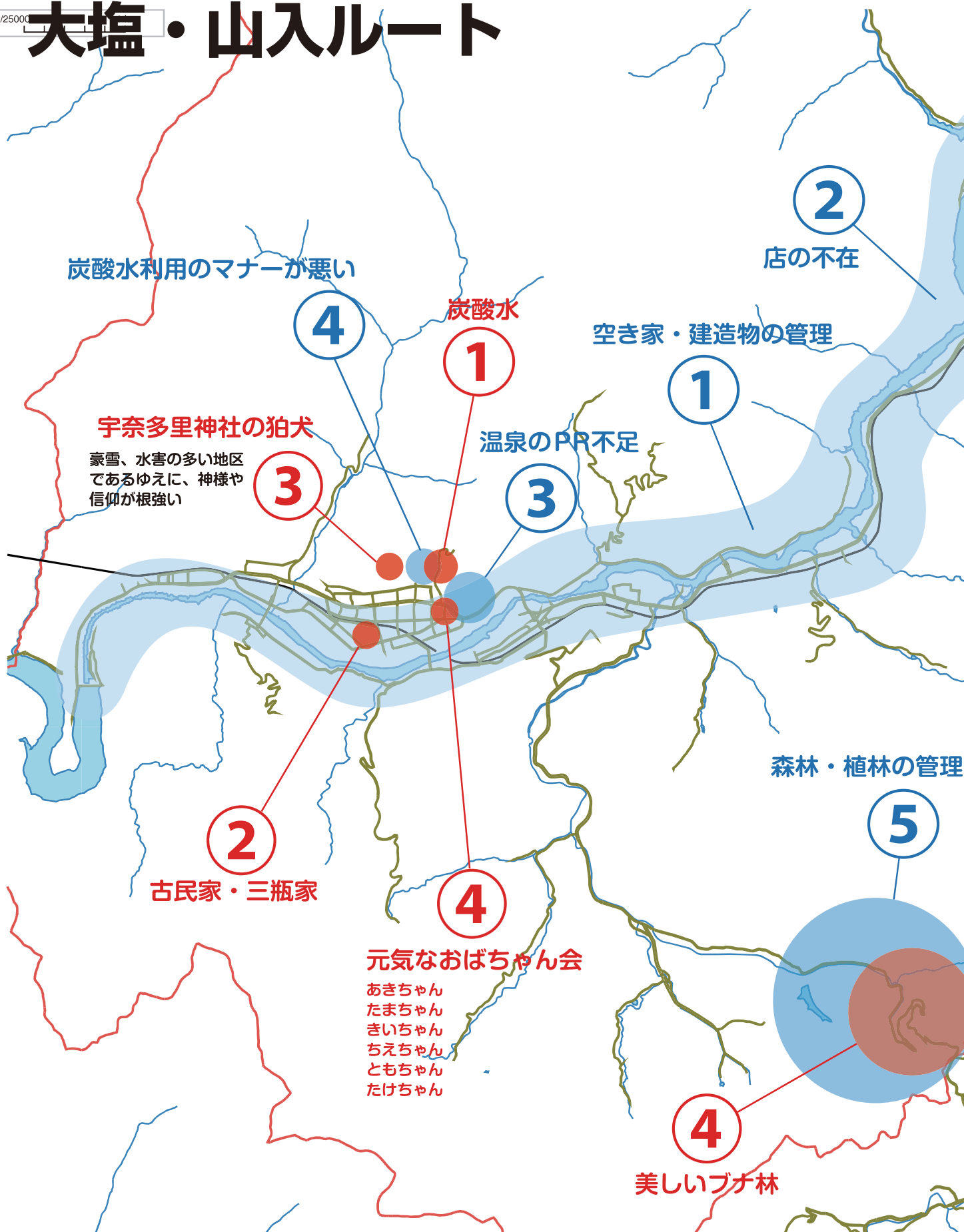
第2回 金山の未来を考える会議 2019.7.13



地域の宝物(資源)と地域の困りごと ベスト5

1/25000

大塩・山入ルート



第2回 金山の未来を考える会議 2019.7.13

地域の宝物(資源) ベスト5

①炭酸水



②古民家・三瓶家



③宇奈多里神社の狛犬



④美しいブナ林



④元気なおばちゃん会



地域の困りごとベスト5

①空き家・建造物の管理



②店の不在



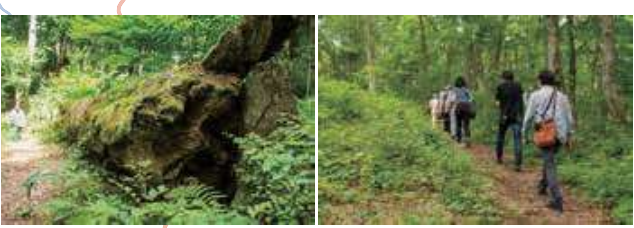
③温泉のPR不足



④炭酸水利用のマナーが悪い

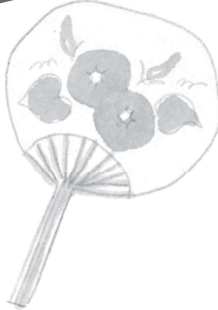


⑤森林・植林の管理



第3回

第3回



2019年度

金山の未来を考える会議

日時：2019年8月23日（金）18：30～20：30

8月24日（土） 9：30～12：00

会場：金山町開発センター

講師：総務省地域力創造アドバイザー 大滝 聡（新潟県村上市在住）

第3回の達成目標

- ・現状調査を基に、困りごとと宝物ランキングの再設定を行う
- ・現状調査を基に、5年後の地域の未来像（両極）を描く

初日 2019年8月23日（金）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
18：30	これまでのふりかえり～第3回（23日と24日）のプログラム紹介	
18：45	ゆるやかな関係づくり（みんなの近況報告）～グループ編成	
19：05	地域の小さな困りごととランキングの再設定	
19：35	未来づくりワークショップ1【成行的な5年後の未来像を描く】	
	①一人一人が相談をしないで、ご自分の思いをポストイットに書く	
	②それぞれの思いをグループ内で発表し合い、全ての思いを共有する	
	③同じ意味合いの意見をまとめる	
20：10	グループ発表	
20：20	全体確認	
20：30	終了	

2日目 2019年8月24日（土）

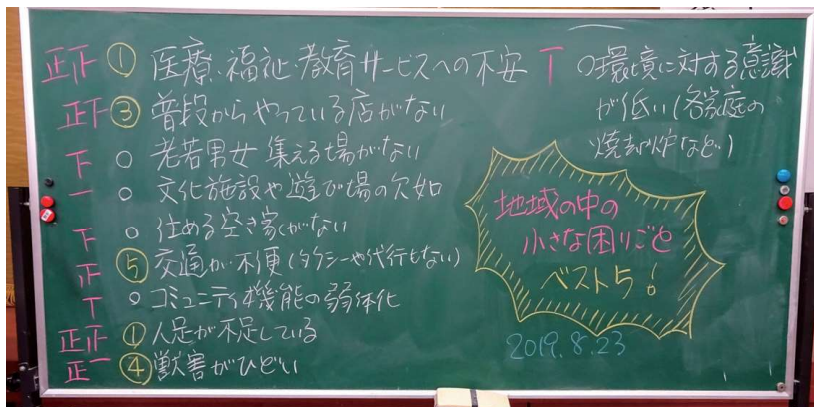
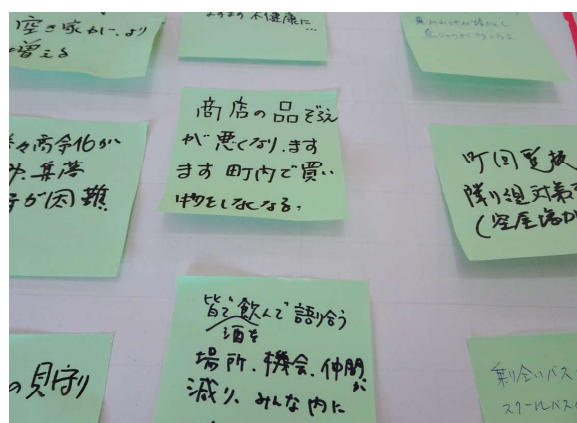
時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
9：30	昨日のふりかえり 本日のプログラム紹介	
9：40	地域の宝物ランキングの再設定	
10：10	未来づくりワークショップ2【可能的な5年後の未来像を描く】	
	①一人一人が相談をしないで、ご自分の思いをポストイットに書く	
	②それぞれの思いをグループ内で発表し合い、全ての思いを共有する	
	③同じ意味合いの意見をまとめ、模造紙の上にまとめる	
11：30	グループ発表	
11：45	全体確認	
11：55	次回のご案内、連絡事項、他	
12：00	終了	

■地域の小さな困りごとと宝物ランキングの再設定

第3回では参加者の顔ぶれが少し違っていたため、皆さんで出していただいた地域の小さな困りごと（第1回のまとめ参照）と地域の宝物ランキング（第2回のまとめ参照）を再検討し、設定をし直した。 ※ 31P、32P 参照

また現状のデータを基に、2つの町の未来（成行的未来と可能的未来）を予想していただくワークショップを行った。

■第3回のスナップ



金山町の宝もの（地域資源）※網掛け部分がベスト5

No.	場所が特定できる資源	順位
1	炭酸水を含む温泉郡	1
2	沼沢湖	2
3	発電所群	4
4	只見川の景観を含む自然遺産	
5	山城群（玉縄城、中丸城、丸山城）	
6	雪形地形	
7	会津発祥の地（御神楽岳）	
8	地層が異なる大地	
9	大塩の町並み	
10	男滝・女滝	
11	大塩炭酸水	
12	滝沢川甌穴群	
13	只見線	
14	山入まがい仏	
15	上横田の熊野神社	
16	伊夜彦神社	
17	本名うせもの地蔵	
18	義民喜四郎成果（お蔵入り騒動）	
19	務幻峡	
20	姫鱒	
21	食材（赤カボチャ、エゴマ油）	
22	野尻川の鮎	
23	スキー場	
24	大志ビューポイント	
25	ブナ林 いやしの森	
26	白樺林	
27	石清水	
28	高原のサンセットビーチ	
29	塩の道	
30	大山道	

No.	場所を特定できない資源	順位
1	伝統技術（自然素材の工芸技術）	3
2	自然の恵みと伝統食	5
3	山を活かす技術（漆など）	5
4	伝統行事（民俗学的な行事）	5
5	希少動植物	
6	普請活動	
7	集落の秋祭り	
8	妖精	
9	山野草、野鳥、昆虫、モリアオガエル	
10	桐	
11	雪	
12	賽ノ神の伝統行事	
13	豊富な山菜、キノコ	
14	サムライの町	
15	只見川の風景	
16	クマやカモシカが見られる	
17	川霧、山霧	
18	きれいな星空	
19	古民家	
20	四季折々の風景	
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

地域の中の小さな困りごと ※網掛け部分がベスト5

No.	地域の中の小さな困りごと	ジャンル	順位
1	医療・福祉・教育サービスへの不安	行政サービス	1
2	人足が不足している	人手不足	1
3	普段からやっている店がない	日常の買物、飲食	3
4	獣害がひどい	空き家	4
5	交通の不便さ（タクシーや代行もない）	交通	5
6	コミュニティ機能の弱体化	コミュニティの弱体化	
7	老若男女集える場がない・文化施設や遊び場の欠如	拠点・サロン	
8	住める空き家がない	獣害・害虫被害	
9	環境に対する意識が低い（各家庭の焼却炉の問題）	住民意識の低下	
10	用水路に除雪した雪が入って溢れる	除雪	
11	個人の除雪がたいへん		
12	消雪設備の修理をしてほしい		
13	国道・町道の歩道の除雪が悪く歩きづらい		
14	草刈りが大変（刈る、片付け）	農作業	
15	カメムシがたいへん	獣害・害虫被害	
16	昼夜問わず道を歩けない（クマの被害が多い）		
17	子どもが少なくて、寂しい	少子化	
18	子どもの遊び場がない（コミュニケーションが取れない）	拠点・サロン	
19	お母さんの集う場が少ない		
20	若い人が通えるような居酒屋が少ない		
21	観光客が集まる場がない（喫茶店等）		
22	週末にやっている店がない	日常の買物	
23	食品の卸が来ない		
24	コンビニがない（決済手続きができない）		
25	買物の場が少ない（ちょい高い）		
26	お土産がない	特産品	
27	キノコ・山菜・工芸素材の場所がわからない		
28	ゴミの分別をもっと細かくしてほしい	ゴミの分別	
29	高齢者宅の保健師の家庭訪問指導が十分でない	見守り	
30	隣近所の付き合いが希薄になっている（見守り）		
31	働く場の選択肢が少ない	職場	
32	高齢化が進んでおり、集落の共同作業に参加できない	コミュニティの弱体化	
33	幼児の医療施設がない	医療・文化施設	
34	宿泊施設がない		
35	町営プールがない		
36	文化施設が少ない		
37	通信インフラ（Wifi）が未整備	インフラ整備	
38	水洗化されていないトイレが多い		
39	只見線が開通することで代行バスがなくなり不便になる	只見線開通	
40	只見線が開通することでストロー現象が起きないか不安		
41	登記登録ができない	行政サービス？	

■地域の未来予想（成行的な将来）

このまま何も手を打たずに5年間放置したときの

金山の成行的未来

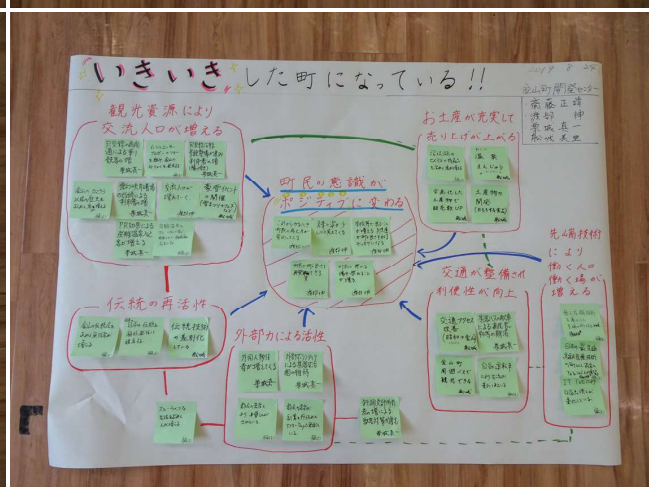
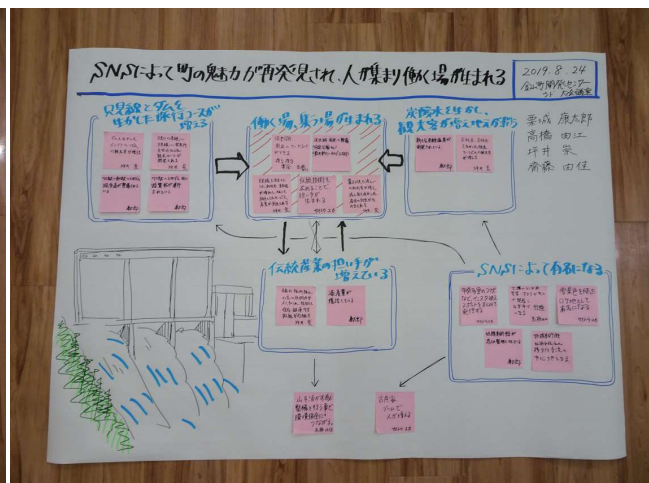
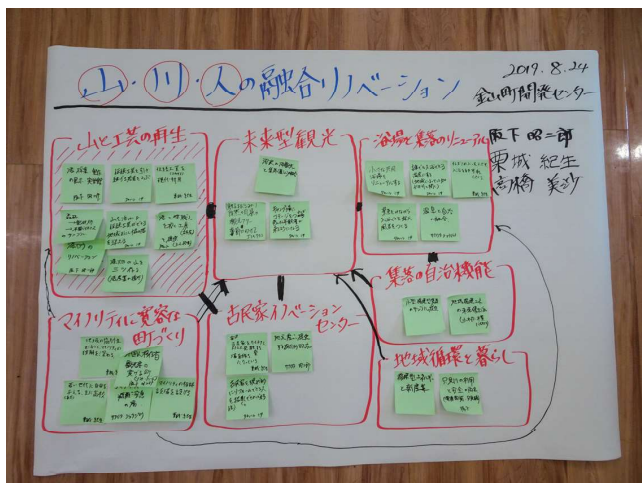
生活・福祉・医療・文化・教育・防災	生活	店主の高齢化で店の廃業が多くなる。
		買い物難民が出てくる→ますます不健康に
		魚類は地元の店で買えない。
		人足が足りず、道が荒れる。
		人が減り、空き屋がより増える、助け合いが難しくなる。
		益々高齢化が進み、集落維持が困難
		高齢者の見守りする人財も足りなくなる。
		商店の品揃えが悪くなり、町内で買い物をしなくなる。
		皆で酒を飲んで語り合う場所・機会・仲間が減り、みんな家に籠もってしまい交流が減り町の活気も↓↓
		有害鳥獣等で生活不安（農業維持が困難）
		乗り合いバス・タクシー・スクールバスの必要性は増すが、人足が足らなくなる。
		生産人口が減少し、生産力が低下。産業として成り立たない（事業継続）ため、廃業が増加し、
		税収の低下と住民生活が困難になる。
		老人人口が多くなり、動ける老人が減り、普請や草刈りなど地域維持が出来なくなる。
		商店がなくなり、移動販売・宅配業者も人口減により商売が出来なくなり、買い物が出来なくなり、生活が出来なくなる。
	福祉	商店主が仕入れに行けなくなる。（運転が出来ない）
		農業を行う人が少なくなり、荒れ地が増加し、鳥獣が多くなる。
		農業（自宅の畑を含めて）を行う人が少なくなり、生活物資を外部からの依存することになるが、店がなく入手できなくなる。
		商業収入、人口減少による税収入が減り、自治体による住民サービスが出来なくなる。（対人口当たりの地方交付税も減少する）
		世話焼き人の高齢化による横のつながりの希薄化
		一人暮らし世帯が増加
		介護サービスを受けたい人はどんどん増えるが、サービスを提供する側の人員が足りずサービスの質が低下
		老人ホーム入所する高齢者が増える。
		サービスの担い手がなくサービスが受けれなくなる。
		介護保険料が増える。
	医療	一人暮らしが多くなり、救急などへの対応が遅くなる。
		保健師不足による健康予防の対応不足
		生活弱者が増えるが、周りにサポートできる人がいない（扶助機能の喪失）
		相互確認の不足（隣人の様子）
		身体のリスクが多い方が増え救急体制の強化が必要であるが、人足が足らずに運営が困難になる。

		夜間、子供の急な病気（熱・痙攣等）時、診てくれる病院が近くがない。（若松まで行かなくてはいけない） 大きい病院が遠いので、緊急時大変 国保利用者が増加し、医療料（介護料）による財政圧迫が生じる。
		伝統文化を伝えられなくなる。 先祖の墓を守れない。 地域のお祭りがなくなる。 文化祭が出来なくなる。 コミュニティが消滅する→町が消滅する。 高齢化でコミュニティの弱体化により、祭りなどの行事が担えなくなる。 伝統行事が行えなくなる。 地区の行事が半減する（人足、祭り等） 伝統芸能（山入歌舞伎）が困難になる。 伝統工芸のあみ組み（ザル・カゴ）が高齢化により先細りになる。
		少子化で学校（小中高）がなくなる。 子供の引きこもり化→近所に遊び相手がいない。 社会教育・公民館活動ができなくなる。 子供（小中）はスクールバスで他町村へ通う。 学校教育が少人数に鳴り、児童・生徒が大変（広域統合も） 学校で、チームスポーツが難しくなる。 学校の生徒数が減り、親も子供の友達が多い方が良かったと思い、ますますUターンも減るという悪循環 子供のいない学校（生徒のいない学年） 学校の利用者が減り不要校舎が出て、スクールバスなどのコストが増加する。
		消防団員が減り、消防団が機能しなくなり不安 高齢者に対する防災対策が行き届かなくなる。 消防体制の維持が人足費用で困難になる。
		共有財産の税金が払えなくなる。 町の財政が破綻する。 インフラが維持出来なくなる。 住み続けたくても住んでいられなくなる。 活躍世代（担い手）が少なくなり、全てに悪影響
		地区によって土砂災害が起こりやすいところがある。 ダムが土砂で埋まり、川床が浅くなる。 山林の手入れ不足で山が荒れる。 温暖化で災害が増える。 水資源が心配

環境	山林が適正に維持管理されないと災害発生しやすくなる。	
	ゴミの問題を放っておくと、温暖化がますますひどくなる。	
	施設老朽化で水源として使用できなくなる所が出てくる。	
	生産性のない山林が増えている。	
	山の管理不十分で水害が起こしやすくなっている。	
	人足が不足すると里山が荒れる。	
	林道整備も難しくなる。	
	人足不足による生活環境の悪化（雑草、あぜ道など）	
	住める空家がないという印象から移住者が増加しない。	
	獣害により農作物生産がより思うようにいかない。	
	町の財政が悪化し、インフラが維持出来なくなる。	
	空き家が増加し、地区の環境が悪化する。	
	除雪が行き届かなくなる。	
	集落の共同作業が困難になる。	
	人間の生活圏の縮小に伴い、野生生物の生息圏の拡大	
水資源確保のため、広葉樹を植えないと水が涸れる。動植物も増えない。		
環境・産業・観光	産業	高齢化が進み、農家も少なくなり、田畑が荒れる。
		熊や猿、猪が増えると農家は作物を作らなくなる。
		獣害を食い止めないと田畑が荒れ、農業が成り立たなくなる。
		赤カボチャなどの特産品生産が激減し、セールスポイント、町の魅力が失われる。
		米作りに携わる人が激減し、耕作放棄の田が約5割増になる。
		漁業の維持が出来なくなる。
		赤カボチャの類似品が出回り苦情が増加している。
		マコモダケの生産する人がいなくなってしまう。
		放流する人がいなくなり、組合維持が出来なくなる。
		ヒメマスに関しては魚を漁獲する人が減少し、量の確保が難しくなる。
		耕作放棄地の増加による農地減少
		後継者がいなくなって廃業
		担い手が減少し、特産品の生産量が減少
		後継者がなく、宿泊施設が減少する。
		建作業の担い手が減り、工事が出来なくなる。
	民宿減少による客入り減→観光業の収入減	
	温泉をもっと活用！　かくれた温泉の入浴以外の活用等	
	宿泊業の減少	
		海外の観光客への対応不足による、海外でのブーム終了
		足を止める場所（喫茶店など）の減少による、客の滞在時間減少

観 光	後継者が不足で受け皿がなくなり、観光客が来なくなる！
	観光施設の老朽化
	只見線が再開通しても電車が素通りしてしまう。
	使わない公園の荒廃
	集客施設や商店の担い手不足により観光客ニーズに応えられず、結果として町を素通りする。
	観光イベントが出来なくなる。
	宿泊できる温泉の数が激減している。
	道の駅などに案内人がいなくなる。
	宿泊施設が減り、町にお金が落ちない→経済の停滞を招く
	施設維持が出来なくなる。

■地域の未来予想（可能的な将来）



可能的未来を描いた4つのグループのまとめ

山・川・人の融合リノベーション

阪下昭二郎 栗城紀生 高橋美紗

山 と 工 芸 の 再 生	漆採集・制作の展示・実習館
	伝統工芸を引き継げる若者を呼ぶ。
	伝統工芸を現代利用
	森林→製作所・木質バイオマスのサンプル
	山を活かした伝統工芸ができる地域興し協力隊を迎える。
	漆工芸職人を招く工房（古民家）を提供（2人招集）
	漆口ウのリノベーション
	漆畑の山を3つ作る。（漆産業の復活）
未 来 型 観 光	沼沢の湖観光と集落（暮らし）の融合
	外国人移住者 観光客の寛げる町（ソフト・ハード）
	自然の風景の観光ツアー（季節に分けて）
	キャンプ場にコテージをつくれれば色んな年齢層が来るようになる。
リ 浴 場 と 集 落 の 再 生	小さな共同浴場をリニューアルする。
	誰でも入浴できる温度にする。（地域によっては加水不可と聞く）
	刺青の入った人でも入浴を許可している。
	景色を見ながら入浴できる露天風呂をつくる。
	温泉と自治の融合
な テ マ 町 イ イ づ に ノ く 寛 り 容	地域の協力性を活かし、マイノリティの理解を深める
	若い世代に自由を与える（主に高校）
	マイノリティの安息の場
	マイノリティの相談場を設ける
ン シ ノ 古 タ ヨ ベ ー ン ー 家 セ イ	古民家を改築し、ストレス発散する場になっている
	地元産を提供する現代的古民家
	古民家を現代的にリフォームできる人を招く。（できれば移住）
自 集 治 落 機 能	小型循環型集落のサンプル提供
	地域循環エネルギーの未来像サンプル（小水力、木質バイオマス）
と 地 暮 域 ら 循 環	循環型エネルギーと新産業
	只見川の利用と安全の両立（電源開発・只見線）

SNSによって町の魅力が再発見され、人が集まり働く場が生まれる

栗城康太郎 坪井崇 高橋由江 齋藤由佳

え 行 を 只 る コ 生 見 ー か 線 ス し と が た ダ 増 旅 ム	ダムを生かしたインフラツーリズムの観光客が増える。 只見川の景観～只見線～発電所をセットにした観光ルートが開発される。 川口駅～道の駅～上田ダム遊歩道が整備されている。 川口駅～上田ダム間に遊覧船が運行されている。
ま 働 れ く る 場、 集 う 場 が 生	沼沢湖、周辺にフードコートができる。夜な夜な宴会 沼沢湖周辺の整備（国定公園化、最も新しいカルデラ湖） 只見線を目当てにした利用者・来訪者が増加し、それらを相手としたサービス産業が創出される。 伝統技術を広めることで、担い手が生まれる。 霧幻峡の渡しの利用者が増え、渡し舟を生かした雇用の創出が生み出される。
え し 炭 地、酸 元 観 水 が 光 を 潤 客 生 う が か 増	新たな炭酸温泉が開発されている。 炭酸泉・炭酸水を生かした健康ツーリズムの観光客が増える。
え 担 伝 て い 統 い 手 産 る が 業 増 の	編み組み細工の高い技術力が広く知られ、技術を保存・継承する取り組みが行われる。 漆産業が復活している。
名 S に N な S る に よ っ て て 有	宇奈多里の狛犬など、インスタ映えスポットをまとめて発信する。 大塩のマンガ本。若者・オタクがネットで発信し、日本中で話題になる。 雪景色を使ったロケ地として有名になる。 妖精美術館が恋人の聖地になっている。 妖精美術館が移文化交流の中心地となる。
そ の 他	山を活かす為に整備を行う事で環境保全につながる。 古民家ブームで人が増える。

只見線再開通により緑豊かな金山町が見直される温泉がにぎわう

渡部武志 青柳清美 青柳ヨシ子 黒川廣志

わ 温 い 泉 の に ぎ	温泉群（滝沢、大塩、湯倉、玉梨、八町、中川）をPRして観光客を呼ぶ。 湯窪温泉の熱利用を考える（60度）熱交換方式を活用。仕掛け流し温泉（42～43度）になる。 温泉巡りのお客が増える。
通 只 見 線 再 開	只見線再開通で宝物をみがき、にぎわいを取り戻す。 只見線再開通により、山城登山道を作り、撮影スポットを整備 金山町に来た旅行者に案内人を付けて、説明してもらっている。
高 ニ 地 ま テ 域 る イ の 機 コ 能 ミ が ュ	各地区で近所の方を声掛けしてお茶会を開いて話し合いを持っている 子供さんとの交流で苺畑、ブルーベリーを作り、摘み取りをしてもらっている。
る 町 緑 が 豊 見 かな 直 金山 さ 町 れ	御神楽岳、霧来沢にトレッキングコースを（高山植物、動物の観察） 御神楽岳を宣伝して登山客を呼ぶ。 いやしの森の来訪者が増加する。
交 流 人 口 が 増 え る	高校生に地元に入って、地元の人と仲良くなっている。 こども（中学生、高校生）に雪下ろし、草刈りを手伝ってもらっている。 子どもたち（中学生、高校生）に地元に入って交流している。 空き家を利用し、都会の方との交流が図られている。 雪下ろし、草刈りなど、ツアーを組んで地元の人と交流している。
い 芸 伝 る が 統 復 文 活 化 し ・ て 工	伝統工芸、ものづくりが活性化している。 手仕事、草履作り、バッグ作り、ろうそく作りなど体験している。 伝統文化・伝統食の良さが見直される。

いきいきした町になっている！！

齋藤正靖 渡部伸 栗城真一 船城美里

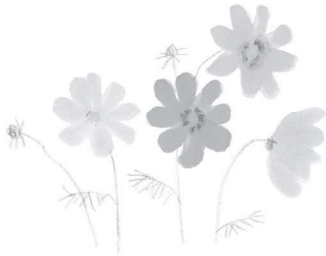
観光資源により交流人口が増える	只見線の再開通による乗客の増加
	インフルエンサー、ブロガーのツアーを組み、金山の魅力を発信する。
	只見線沿線景観整備が進み、利用者の増加（撮り鉄）
	金山の鎌倉以降の歴史を求める客が増える。
	霧幻峡舟着場の改修による利用者の増加
	交流人口が増えていく。
	豪雪イベントの開催（雪祭りフェスなど）
	P R 効果による炭酸温泉入浴客が増える。
	炭酸温泉を T V ・ Y o u T u b e 等で特集させ、有名にする。
お土産が売れ、土産物が上る	沼沢湖のヒメマスの特産品を求める客が増える。
	新たな温泉まんじゅうができています。
	企画化した土産物で販売数UP
	土産物の開発（日持ちする食品）
町民の意識が変わる	これからやるべき町民の考え方が変わってくる。
	未来の姿が少しずつ見えてくる。
	学校等で学ぶことが増える。子供達が町の良さを知るキッカケになる。
	町民が町の良さを再発見できる。
	町民が集める場や楽しめることが増える。
伝統の活性化	金山の伝統食を求めて来訪者が増える。
	会津の日本の伝統を海外発信して誘客する。
	伝統技術の差別化している。
外部の活性化	外国人移住者が増えてくる。
	外部ボランティアによる集落生活圏の維持
	都会の若者により、普請がされている。
	都会の若者が、副業を行うためにアフターDayに来通している。
交通の整備	交通アクセス改善（昭和→金山間がつながる）
	集落バスの配車による病院・買い物等の解消
	金山町周遊バスで観光できる。
	自動運転車により生活が変わっている。
働く場の増え	無人店舗技術を導入して先端の町にする。
	日本の最先端高齢医療技術の町として有名になることで、人が増加。
	I T ・ I o T により、日常品購入が変化している。
その他	スローライフな生活を求める人が増える。
	狩猟免許所有者増による獣害対策が進む。

第4回

第4回

2019年度

金山の未来を考える会議



日時：2019年9月13日（金）18：30～20：30

9月14日（土）9：30～12：00

会場：金山町開発センター

講師：総務省地域力創造アドバイザー 大滝 聡（新潟県村上市在住）

第4回の達成目標

- ・これまでの成行を変える手の打ちどころを見つける
- ・手の打ちどころに沿って地域づくりアイデアを出し合う

初日 2019年9月13日（金）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
18：30	これまでのふりかえり～第4回（13日と14日）のプログラム紹介	
18：45	自己紹介とみんなの近況報告（秋になってしみじみ思うこと）～グループ編成	
19：05	成行を変える手の打ちどころを探すワークショップ	
	①グループ内で「何が原因（手の打ちどころ）なのか」を話し合う	
	②グループ内で出た意見を一つずつポストイットに記入する	
	③それぞれのグループの中で出たポストイットを中央のホワイトボードに貼り出す	
	④全体で確認し、その要因（真の問題）を共有する	
20：20	全体共有	
20：30	終了	

2日目 2019年9月14日（土）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
9：30	昨日のふりかえり 本日のプログラム紹介	
9：40	手の打ちどころに沿って地域づくりのアイデアを出し合うワークショップ	
	①一人一人が相談なしに、ご自分のアイデアをできるだけ多くポストイットに記入する	
	②それぞれのアイデアをグループ内で発表し合い、わかりやすく整理をする	
	③それぞれのアイデアを組み合わせたりして、さらにいいアイデアを生み出す	
11：10	グループ発表	
11：25	全体確認と評価、意見交換	
	【アイデア評価のポイント】 1. 地域資源を活かしたアイデアか 2. 地域の小さな困りごとを解決するアイデアか 3. 手の打ちどころに沿ったアイデアか	
11：55	次回のご案内、連絡事項、他	
12：00	終了	

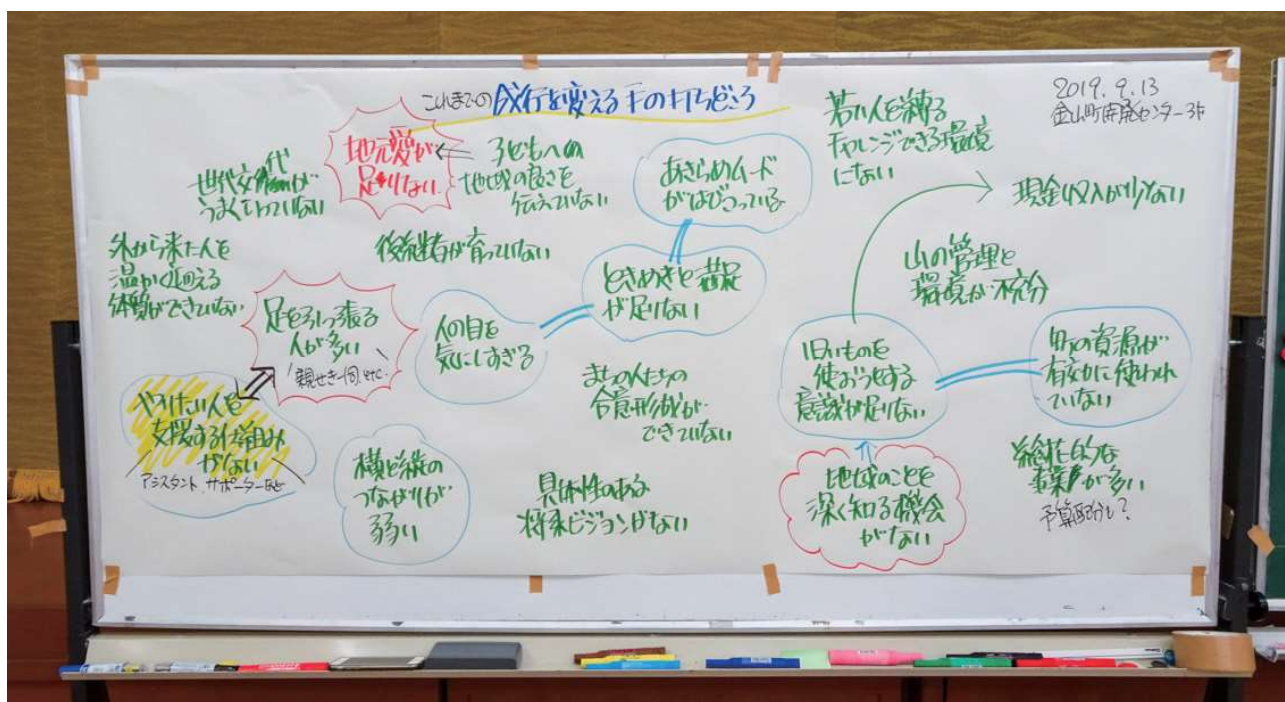
■成行を変える手の打ちどころを探す

第3回の会議では、金山町における2つの未来（成行的な未来と可能的な未来）を描いていただいたが、金山町に限らずどのまちでも、可能的な未来に向かおうとするときに障害となっていることや、今まで手を打ってこなかった真の問題ともいえる根本的なポイントが潜んでいるものである。今回はその「要所」を解明するワークショップを行った。

■第4回のスナップ（9月13日）



ワークショップ風景

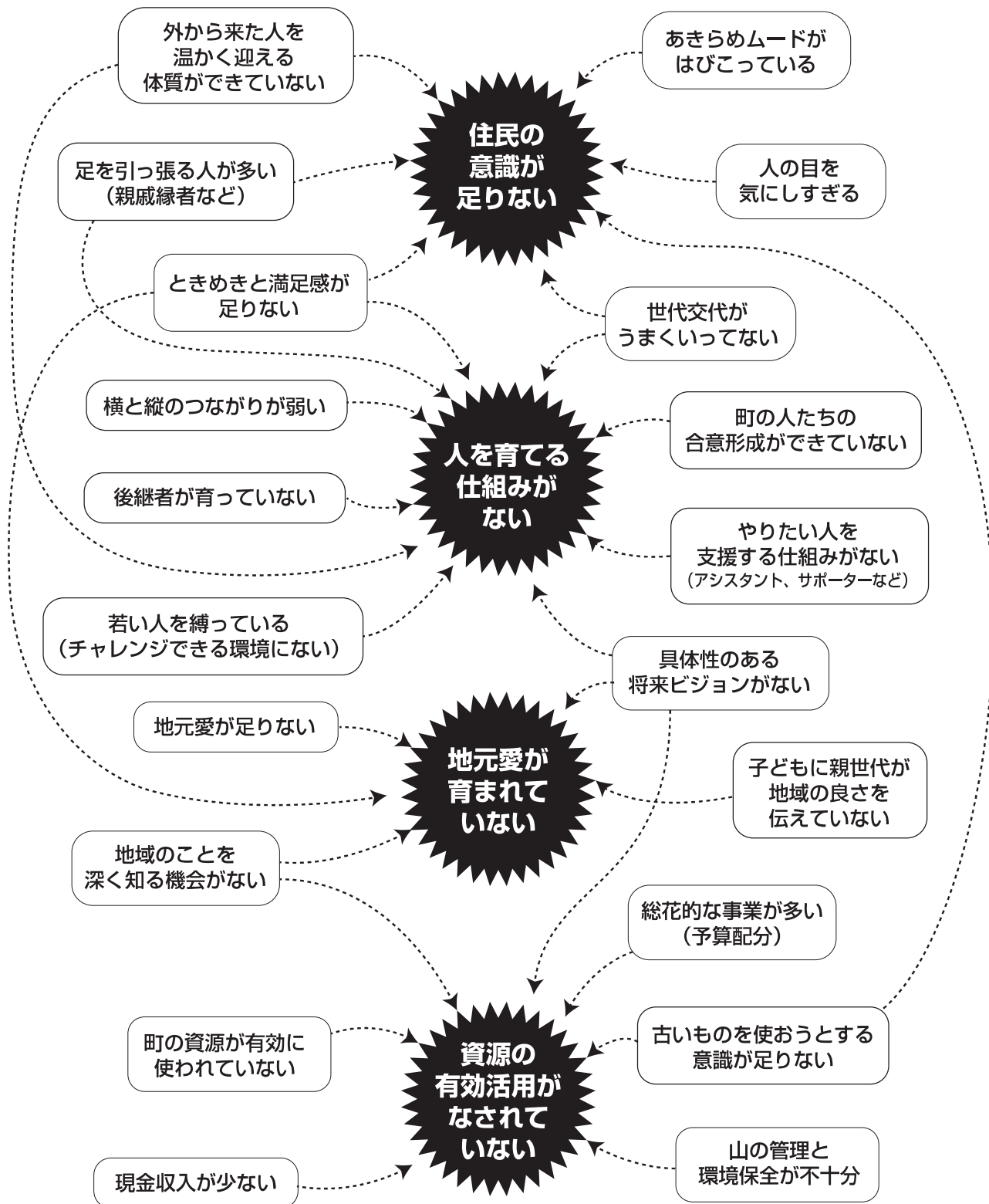


各グループから出された手の打ちどころ

■手の打ちどころのイメージ構造図

成行を変える手の打ちどころ（可能的な未来を阻む要因）

2019.9.13



■手の打ちどころに沿った地域づくりのアイディアを出し合う

9/13の夜の会議では、多くの手の意見が出されたが、それを集約すると4つの大きな手の打ちどころが見えてきた。その4つとは「住民の意識が足りない」「人を育てる仕組みがない」「地元愛が育まれていない」「資源の有効活用がなされていない」である。

9/14にはその4つの手の打ちどころに対して有効な地域づくりアイディアを皆さんに考えていただいた。

■第4回のスナップ



4つの手の打ちどころをテーブルに分けてアイディアを出し合う



テーマに沿った地域づくりのアイディアを発表する

「住民の意識が足りない」
に関して手を打つ地域づくりアイデア



「人を育てる仕組みがない」
に関して手を打つ地域づくりアイデア



「地元愛が育まれていない」
に関して手を打つ地域づくりアイデア



「資源の有効活用がなされていない」
に関して手を打つ地域づくりアイデア



■テーマ別の地域づくりアイデア

住民の意識（合意形成も含む）を変える

共有課題と未来像の	住民各自が「したいこと」を宣言し、共有する。
	住民にアンケートをとってみる。（困りごと、これからのこと等）
	未来永劫、何もしないようになるかを集落単位でもっと考えてもらう。
	この町の本当の現状を住民、出身者と共有する。
テーマ設定	自分が何ができるのか発信
	将来ビジョンを出し合う機会と発表の場を設けて、住民による意思決定（投票など）を行う。
	再生可能エネルギーに替えていく。
	力を入れるテーマを1つに絞り、それに専念する。
	「文化祭」をはじめとした各種イベントを町合同で開催し、町全体で何かし取り組むという機運を生み出す。
交流会を設ける	月に一度、「マイノリティの」講演会を開く。
	「マイノリティ」該当者と非当事者との交流会を途中で止めず定期的に行う。
	ひと工夫を加えた町内行事
	年に一回、大鍋を囲んで大交流会をする。
	似た者同士で気軽に話し合う場を設ける。
	金山の未来を考える会のようなワークショップを若い人中心に実施する。
	飲む場所を作る。（定期的に公共施設開放やビアガーデンを作る）
	若い方を応援したい人を募集して応援サークルを作る。
	今回のようなワークショップを毎年実施する。（住民意識の向上）
	やる気のある人だけで集まって話をする。
	子育て女性の集まれる場を作る。（イベント・サークル）そのサポーターも作る。
	相談する機会を設ける。（小、中、高の学生）
直意識や規則の見	いらぬ誇りを手放す。（校則など）
	あきらめムード、行政まかせの状況を変えるため、合意形成→実践する意識改革を進める。他の成功例などを参考にする。
	学校の保育の授業を見直す。※教科書では伝わらない点が多いため
	足を引っ張る人を互いに注意する。
	今までの常識を変える。

人を育てる（サポーターや後継者など）

生涯学び合い	年代別に人間としての社会人教育の仕組みを作る。			
	才	意識	個人能力	チームワーク教育
	100 50 20 10	(終活) (利他) (自立)	大学 高校 中学 小学	
制度の整備（町中心）	やる気応援事業の充実			
	資格取得や講座参加等へ補助を出すなどのサポートを！			
	雇用の場所を増やす。			
	子育てが難しい親から、子供を預かる山村留学制度を行う。			
	川口駅前商店街の活性化			
	シングルマザーを積極的に受け入れる制度を作る。			
	地域おこし協力隊やふるさとサポート集落支援員などの制度をフルに活用する。			
	奨学金制度→将来、町に10年間住めば返さなくて良い。			
	人を育てる仕組み。行政・企業・一般住民が一体となり、継続的に人づくり（組織）を進める。（一過性でなく）			
	町（行政）の支援による宿泊施設の充実			
若者の多世代交流	どんな所に人が足りないか調べて人足を派遣できる仕組みをつくる。			
	やりたいことを共感・共有したりできる場所を一つは作り、チャレンジできるように後押しする。			
	若者が自由に集まれる居場所をつくる。			
	若者やよそ者の意見に耳を傾ける。			
	学生を集め、町への意見・提案を募集する。			
	若者向け溜まり場を駅前に。			
	若い方が何をしたいのか発表させる。（困りごと）			
	若者に新しいアイデアを聞いてやらせてみる。			
	都市部の若い方のサイドビジネスの行い方を企業と組んで誘致する。			
	小・中・高校生と地元産業の連携			
組の地 み仕区	若い方の政治参加（区長など）を促す。（世代交代も視野に）			
	地区の意見の合意形成の場に若い人の意見を言える場を設ける。			
の外 力部	地区のリーダー、担い手、後継者を誰もが納得して従う。選挙で選ぶ。			
	地区の役員を年功序列ではなく、若い人がやる機会や話せる場をつくる。			
漆職人及び編み細工職人の呼び込み、育成する。				

地域愛をつくる

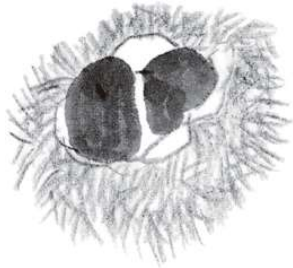
口 著 ケ 名 地 人 ・	有名人に住んでもらうように頼む。
	テレビや映画のロケ地として町を売り出す。
の 地 機 産 会 地 消	各自が地産地消の意識を持って行動する。
	地元の商品を手軽に買えるようにする。（野菜など）
大 ふ 学 る さ と	その道のプロに記事依頼して情報共有する。
若 い 世 代	自分の子供や、孫に金山の良さを伝える。
	幼少期からもっと地元の宝物に深くふれる機会をつくる。（例、ヒメマス放流で終わりではなく。）
	川口高、金山中の学生と役場、観光物産などの機関でつなぐ会を開く。
	幼、十～中、高まで一貫した体系をつくる。
	親世代への学習機会をつくる。
	郷土料理を月に一度、小中学校で出す。
	高校生とアクティブラーニング（地域と仕事）
伝 地 統 元 を の 知 歴 る 史 ・	アナログ時代の遺産（手仕事）ワークショップ
	山ノ内家とその家臣団の歴史を勉強。（広報などで発信）
	山ノ内家、小栗山喜四郎等を「かみしばい」にする。
	子供達へ金山の歴史を教える機会を増やす。
	伝統行事の継続、復活。
と 地 の 元 関 出 係 身 者	地元出身者の帰省する際に金山町を考える企画を作り参加を促す。
	地元出身者とのネットワークを作る。（メルマガやメールアドレス双方向の収集して相談できる仕組み作り）
関 外 係 部 者 と の	来訪者と地域の人々がふれあう機会をつくり、地域の良さに気付かせる。
	外の人と交流する。（ときめき・気づき・自信・やる気を生み出し続けるため）
	都市部の若い方で草刈り、除雪、稲刈りなどのバックツアーを行う。
活 地 地 性 域 区 の ・	地域の祭りを復活させ、賑わいと活気を取り戻す。
	地区・集落ごとにビジョンを考えながらつくる。

資源の有効活用

山 や 森 の め ぐ み 利 用	山に手をいれて薪作り→販売へ
	薪ストーブ導入すれば補助金が出る等して資源を活用する。
	山菜・木の実を買い取る仕組みを作る→その後大量に売る。
	森林での楽しみ方を知る場（セミナーやツアー）を設ける。
	うるし、桐の復活！
	山の物を売れる物だと知ってもらって、作り手を増やす。
	漆生産地の復興、金山の誇りを取り戻す。
	広葉樹の植林により水源確保と動植物の生息環境を確保するための行動をする。
	山の恵を利用した故郷料理の復活（とち餅など）
	森林を生かす木の利用を考える。
	山ぶどう、栗、クルミなど山の幸を大切にする。
	山歩きなどで山を活かす。
	環境保全と合わせて、山岳行事の開催。（県外から呼び込む）
町 資 源 の 再 生 と 活 用	水資源（只見川）の利用と保全共有に向けて
	草刈りや除雪のツアーを組んで楽しく仕事をしてもらう。
	古いもののよさをわかってもらう機会をつくる。
	古民家再生
	天空の散歩道（スキー場から川口上野原）整備、越後山脈など一望できる。
	沼沢湖をめぐる散策路の整備
	電源開発や鉱山開発など、この町の形成の歴史を世代を超えて共有する。
	旧玉梨小でのイベント募集
	イベント等の開催を通して、既存の施設を有効活用する。
	只見線でSL運転（四季ごとに）
信 町 資 源 の 情 報 発	妖精美術館の再評価、リニューアルを含めPR強化
	古くからある施設についての理解を深められるような取り組みを進める。
	ダムが多いので、住民が安心して暮らせる災害対策の充実
	SNS等を使って、町の良さを発信。
	有名な動画投稿者に動画作成を依頼する。
	フィルムコミッションを立ち上げて、古い物を活用
開 の 資 発 再 源	ツアー的な見どころをもっと発信する。
	YouTubeに動画投稿
	旧玉梨小の宿泊サイトを作る。
活 温 用 泉 の	たわいのないもの・ことでもSNSで発信する。
	地域を歩いて良いところ、悪いところを各地区で互いに楽しみながら点検する。
	町外から、町の資源を活用できる人（法人）を募る。
連 産 携 学 官 の	温泉巡りをしやすいパスを作って利用率を上げる。
	温泉の特色（特産）を調整し、温泉群を有機的に
	温泉巡りのコース設定
	次世代技術の見本市の参加を企業とのコネクション作りと誘致
	森林環境保全と利用、専門家の招へいとモデル地域設定
	里山復興の試験的地区の設定、取り組み。（＝獣害対策→集落機能の回復）
	会津大や国研究者を呼び寄せる。

第5回

第5回



2019年度

金山の未来を考える会議

日時：2019年10月21日（月） 18：30～20：30
10月22日（火・祝） 9：30～12：00

会場：金山町開発センター

講師：総務省地域力創造アドバイザー 大滝 聡（新潟県村上市在住）

第5回の達成目標

- ・これからの地域づくりを支える組織のあり方を検討する
- ・アイデアを事業化するための詳細を検討する

初日 2019年10月21日（月）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
18：30	これまでのふりかえり～第5回（21日と22日）のプログラム紹介	
18：40	みんなの近況報告（今年中にやり遂げたいこと）～グループ編成	
19：00	これからの金山に必要とされる組織を考えるためのワークショップ	
	●各テーブルの責任者（まとめ役）を決める	
	テーブル1：組織のミッション（使命）を考え、その文案を作成する	
	テーブル2：事業領域を確認し、その中で展開する事業を3つに絞り込む	
	テーブル3：どうやったら参加したくなる組織になるかを考える	
20：25	本日のふりかえりと明日の予定の再確認	
20：30	終了	

2日目 2019年10月22日（火・祝）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
9：30	昨日のふりかえり 本日のプログラム紹介	
9：40	アイデアを事業化するためのワークショップ	
	①具体化させたい事業を絞り込んで、グループ編成を行う	
	②一人一人が相談なしに、配付したワークシートに記入する	
	③グループ内で個々のワークシートを発表し合う	
	④ワークシートと同じ内容の模造紙を作成する	
	⑤グループ内で協議して、合意された内容をその模造紙に書き込む	
11：10	事業別のグループ発表～全体共有	
11：30	意見交換：自分はどの事業を担当したいか、または適任はどなたなのか	
11：55	次回のご案内、連絡事項、他	
12：00	終了	

■新しい地域づくりのための組織のあり方を考える（10月21日）

前回手の打ちどころが絞り込まれ、それに沿った地域づくりのアイデアが生まれたが、今回はそのアイデアを実現するための組織のあり方をみんなで考えた。

具体的には、組織のミッション（使命）を考えるテーブルと事業領域を考えるテーブル、そして参加の方法を考えるテーブルに分け、それぞれに意見を出し合い、それを基にまとめていった。

■第5回のスナップ（10月21日）



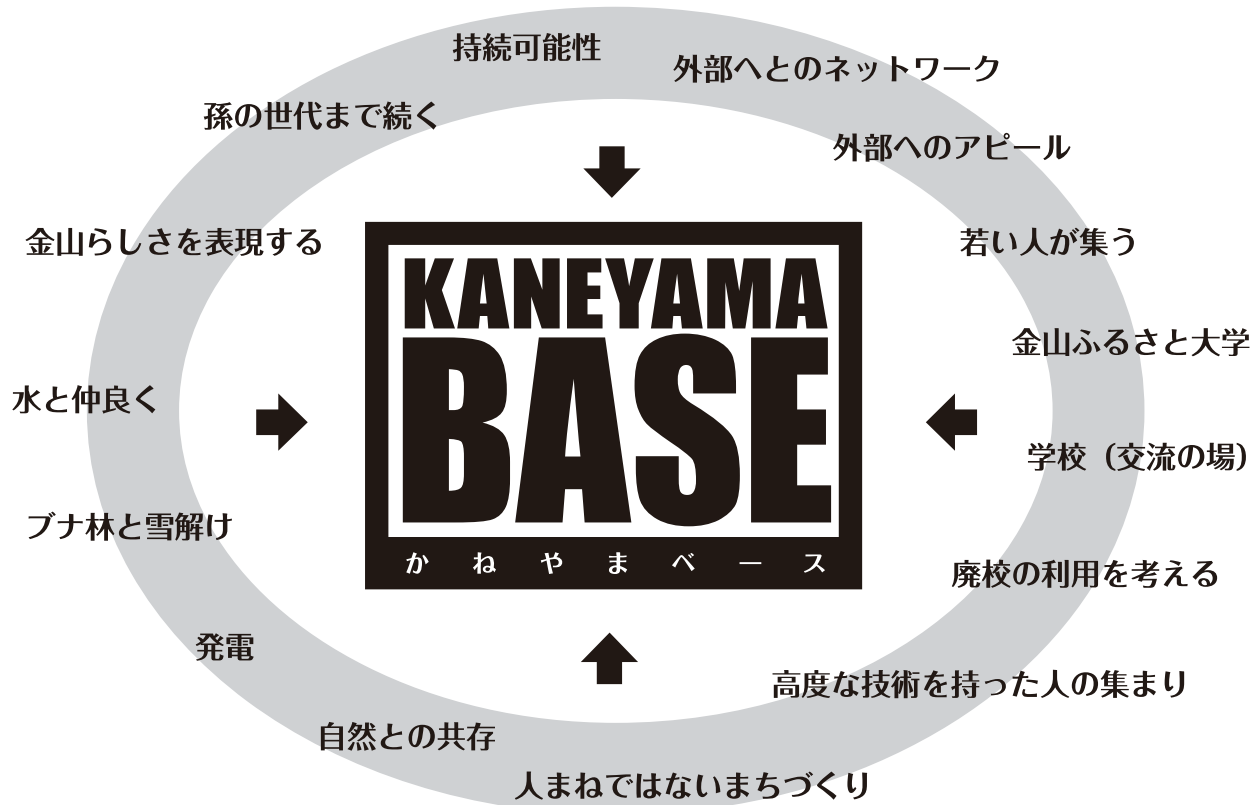
■新しい組織のイメージ（キーワードを繋いだネーミングとミッションの案）

これからの金山に必要とされる組織

2019.10.21

◎組織のネーミングとミッション（使命）

出されたキーワードとネーミング案



BASE とは

基部、底、土台、台座、（物事の）基礎、根拠、（政治などの）支持母体、ふもと、（指・鼻などの）つけ根、（行動・計画などの）出発点などを指す。

ここでは金山の基礎を示す言葉として使い、ここから金山再生の行動を起こすという強い意志をネーミングに込める。

組織のミッション（案）

ミッションを構成する主なキーワード

「住民の意識改革」＋「安心と安全を実現する」

ミッション（案）

Kaneyama Way

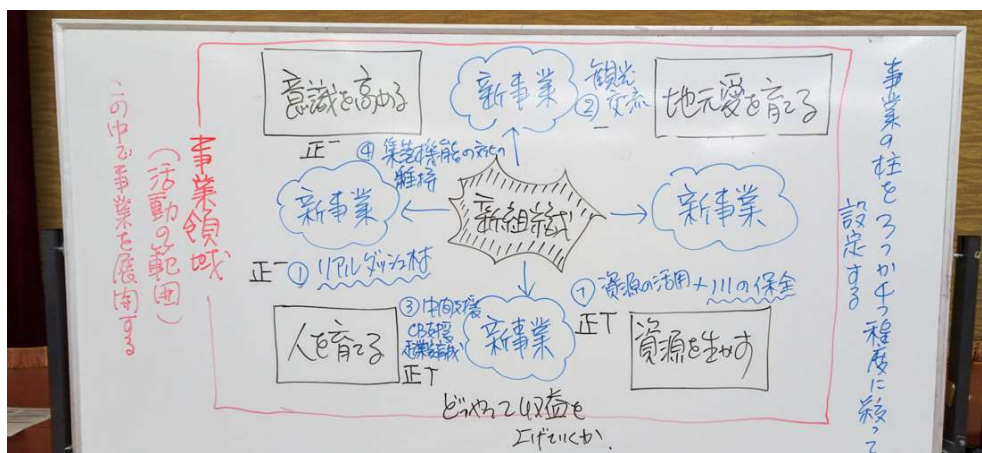
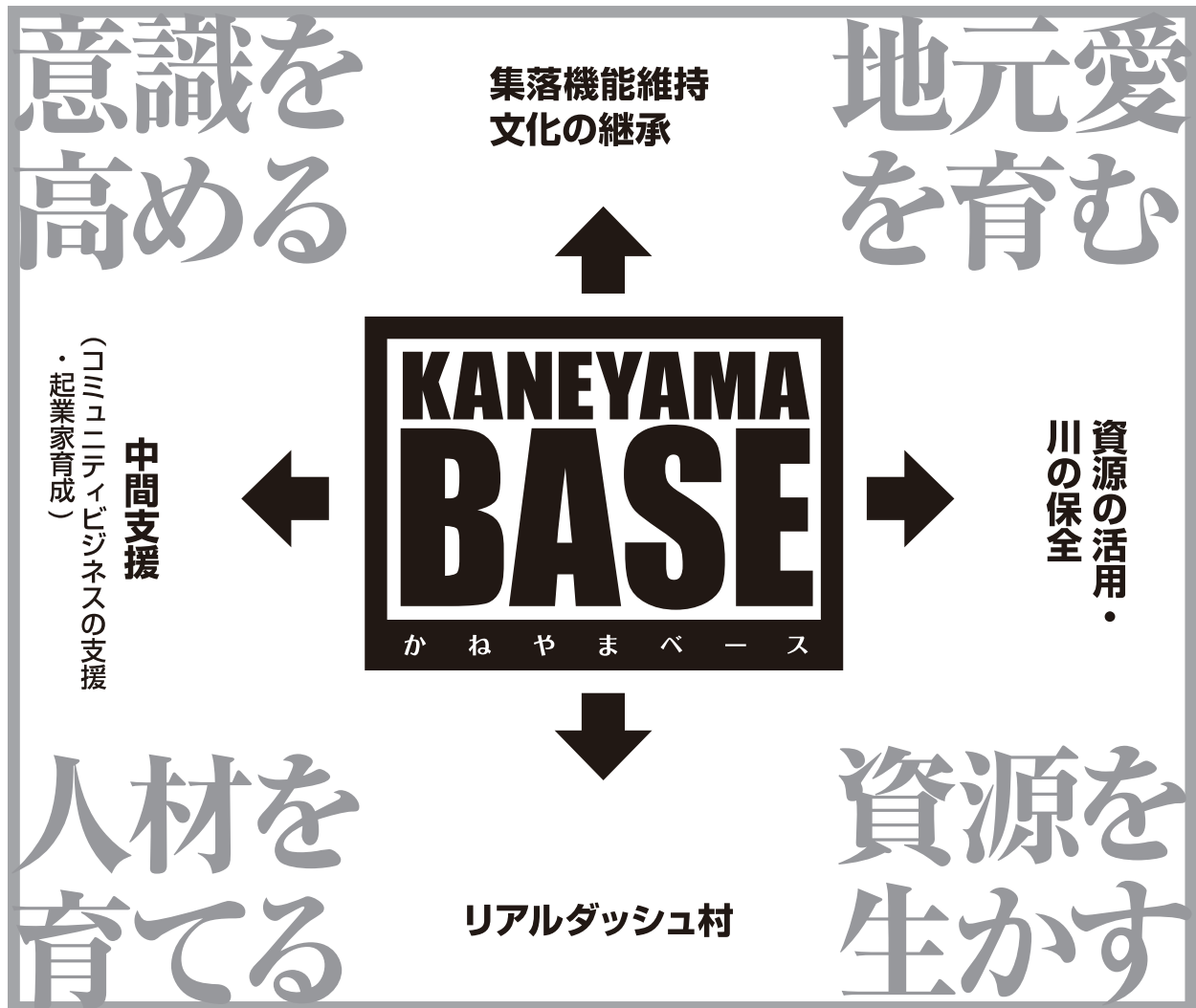
金山の資源を生かして新しい風を起こし、安心安全な暮らしを実現する

■新しい組織のイメージ（活動する事業領域）

これからの金山に必要とされる組織

2019.10.21

◎事業領域（活動の範囲）とそれに沿って展開する事業の絞り込み



事業領域における新事業の位置づけを開示したホワイトボード

■アイデアを事業化するための検討作業（10月22日）

新しい組織で設定されたミッションと事業領域を基にして、具体的な事業アイデアを出し合い、その内容を検討していただいた。

その結果、人材育成事業、中間支援活動、集落維持活動、地域資源活用の中からそれぞれの主たる4つの事業が浮かび上がった（次ページ以降参照）。

■第5回のスナップ（10月22日）



■4つのグループで作成した新規事業の概要

新規事業検討シート

第5回金山の未来を考える会議
2019.10.22

A	事業プラン名	えにし 水と縁のかねやま BASE	グループメンバー	目黒 謙 栗城康太郎 滝沢和俊
	具体的内容 ・自然教育村会館を BASE として集落機能の維持・伝統文化の継承 事業のシンボルとして本城（本丸） ・各地区の空き家を出張 BASE（出城）として、古民家再生・耕作放棄地再生 ・各 BASE を利用した体験学習⇒観光交流 ・各 BASE での活動をリアルタイムで発信⇒外部からの参加者を募る			
具体的な進め方		実施期間 立ち上げ3年+3年+3年 ホップ・ステップ・ジャンプ	協力者・協力団体	
・組織の立ち上げ（NPO や社団法人など） ・プラン作り（予算、スケジュール） ・参加者募集（全国だけでなく海外含む）		町内の有志 町内の伝統技術保持者 電力事業者 マスコミ		
実行予算		その調達方法 森林交付金 ふるさと納税 クラウドファン ディング サポーター制度 成果物の販売 参加費		
この事業が成功したら町はどのように変わるか 金山町を全国（海外含む）に知ってもらふ事により交流人口さらに移住者を増やす				

B	事業プラン名	窓口半端ないって!! ※中間支援活動	グループメンバー	江口尚平 滝沢康成 坪井 崇 斎藤正靖
	具体的内容 ①Needs 調査（会合、集会含む） ②現在活動している事業の把握と共有 ③相談窓口作り ④新規計画の作り方の講義 ⑤県内外のサポートの把握 ⑥取り組みの情報配信			
具体的な進め方		実施期間	1 年内	
相談窓口を作る（担当は？） 1) 「県内外のサポートの把握」をまとめる 2) 1) でできたものを事業者団体にヒヤリング Need 調査を兼ねてお配りする。		協力者・協力団体		
実行予算 300 万		その調達方法		
この事業が成功したら町はどのように変わるか				

新規事業検討シート

第5回金山の未来を考える会議
2019.10.22

C	事業プラン名	かねやま way ※集落維持活動	グループメンバー	青柳清美 高橋美沙 押部邦昭
	具体的内容 ◎「集落」をもう少し広い「地区」として捉える（集落の連携） （1）地区の環境・現状・資源を話し合う場を設ける （2）地区の環境整備・文化継承を行う （3）地区の「達人」を掘り起こし、伝統文化継承に携わってもらう（教育含む） するためには ア. 中間支援組織に地区間の調整や外部人材（ボランティアなど）の確保を行ってもらう イ. 外部人材に作業文化継承に参加してもらうとともに地区との交流を進める ☆集落昨日の維持には後継者確保が必須 ex 商店など			
具体的な進め方		・対象地区の選定 地区との話し合い ・今回の未来を考える会議に参加した人と区長さんを中心に定期的に進める	実施期間 1～3～5 年	協力者・協力団体 中間組織 外部人材 地区の達人 行政 区長
実行予算	100 万	その調達方法 当面は補助金		
この事業が成功したら町はどのように変わるか かねやま独自の資源、人材を活用し、外部人材もまき込んで集落機能を維持発展させる。				

D	事業プラン名	水と森のプロジェクト	グループメンバー	吉場大晟 黒川廣志 栗城真一 阪下昭二郎
	具体的内容 〈治水優先の町づくり〉 ・森林循環（育苗→植えつけ→管理→伐採） ・伝統工芸の再発掘（暮らしの再発見、調査） ・ウルシ植栽→管理、抜き取り			
具体的な進め方		・フォレスターの招へい・育成 →ワークショップ開催、展示 ・ミノ、ワラジ、ゲンベいの製法、聞き取り、継承 ・ウルシ掻き師の育成	実施期間	協力者・協力団体
実行予算		その調達方法 		
この事業が成功したら町はどのように変わるか ローカルビジネス（スモールビジネス）の隆盛→観光客の増大→新しい経済循環				

第6回

第6回

2019年度

金山の未来を考える会議



日時：2019年11月8日（金）18：30～20：30
11月9日（土）9：30～12：00

会場：金山町開発センター

講師：総務省地域力創造アドバイザー 大滝 聡（新潟県村上市在住）

第6回の達成目標

- ・新しい組織で行う新規事業等のスケジュールをつくる
- ・ゲストを迎え、これからの金山について意見交換を行う

初日 2019年11月8日（金）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
18：30	これまでのふりかえり～第6回（8日と9日）のプログラム紹介	
18：40	みんなの近況報告（来年の抱負）～グループ編成	
19：00	新しい組織の活動スケジュールをつくるためのワークショップ	
	1. 各テーブルを配置する	
	①組織運営 ②中間支援活動（＋人材育成） ③地域資源活用 ④集落維持活動	
	2. スケジュールを作成したいテーブルに付く	
	3. フォーマットに沿ってそれぞれのスケジュールを作成する（3年以内）	
	4. 各テーブルの発表	
20：25	本日のふりかえりと明日の予定の再確認	
20：30	終了	

2日目 2019年11月9日（土）

時間	内容	※時間や内容はあくまで目安です。
9：30	これまでのふりかえり 本日のプログラム紹介	
9：40	金山の未来を考える意見交換会 Part.1	
	①意見交換のやり方とテーマの説明	
	②1ラウンドのテーマ：「地域づくりの大切さをどのように住民に伝えるか」（20分）	
	③2ラウンドのテーマ：「新しい組織に住民をどのように参加させるか」（20分）	
10：30	ゲスト講話「だんだんど～も只見線沿線元気会議（新潟県魚沼市）の活動」 だんだんど～も只見線沿線元気会議 会長 横山正樹さん	
11：15	金山の未来を考える意見交換会 Part.2	
	④3ラウンドのテーマ：「只見線沿線の元気をどのように広げていくか」（20分）	
11：50	ふりかえりシートの記入、連絡事項、閉会の挨拶	
12：00	終了	

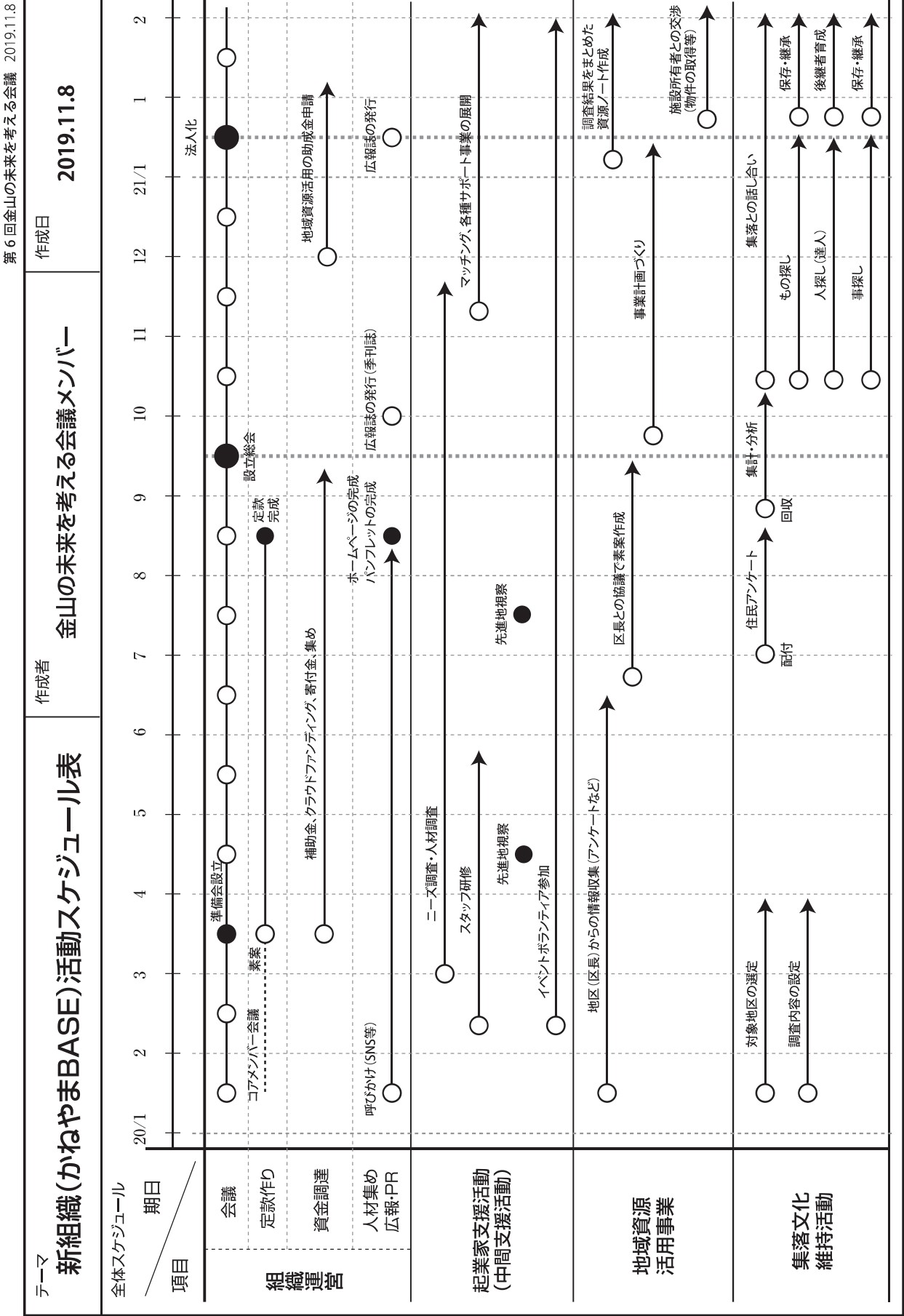
■新しい組織で地域づくりを進めるためのスケジュールを作成する（11月8日）

前回生まれた新しい組織と事業を具体的に進めていくためのスケジュールを、4つのグループ（組織運営の手順を考えるグループ、中間支援活動の手順を考えるグループ、地域資源活用の手順を考えるグループ、集落維持活動の手順を考えるグループ）に分かれて作成していただいた。フォーマットは予め用意したスケジュールワークシートを活用。

■第6回のスナップ（11月8日）



■ 4つのグループが作成したスケジュールを一つにまとめたもの

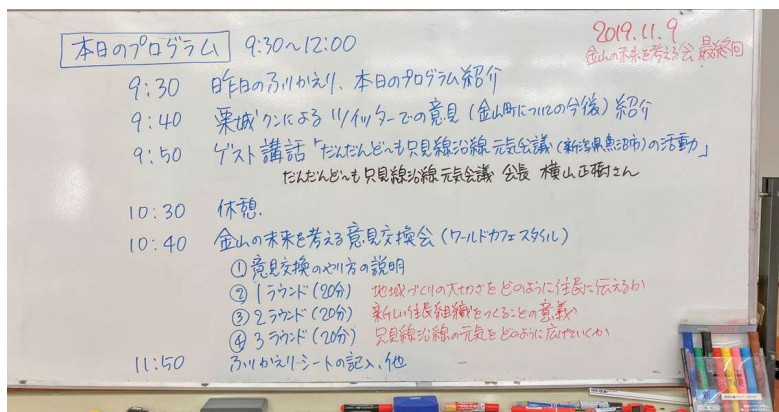


■ゲストを迎えて講話を聞き、参加者同士で意見交換を行う（11月9日）

最終回となったこの日は、新潟県魚沼市より「だんだんど〜も只見線沿線元気会議」の会長である横山正樹さんをお招きし、同じ只見線沿線で精力的な地域づくりを展開している事例をお聞きし、その後で今回の金山の未来を考える会議を振り返って参加者同士の意見交換を行った。

横山さんから、だんだんど〜も只見線沿線元気会議の活動の他、直売所経営を中心とした元気すもんプロジェクトの2つをスライドやパンフレットを基にご紹介いただいた。

■第6回のスナップ（11月9日）

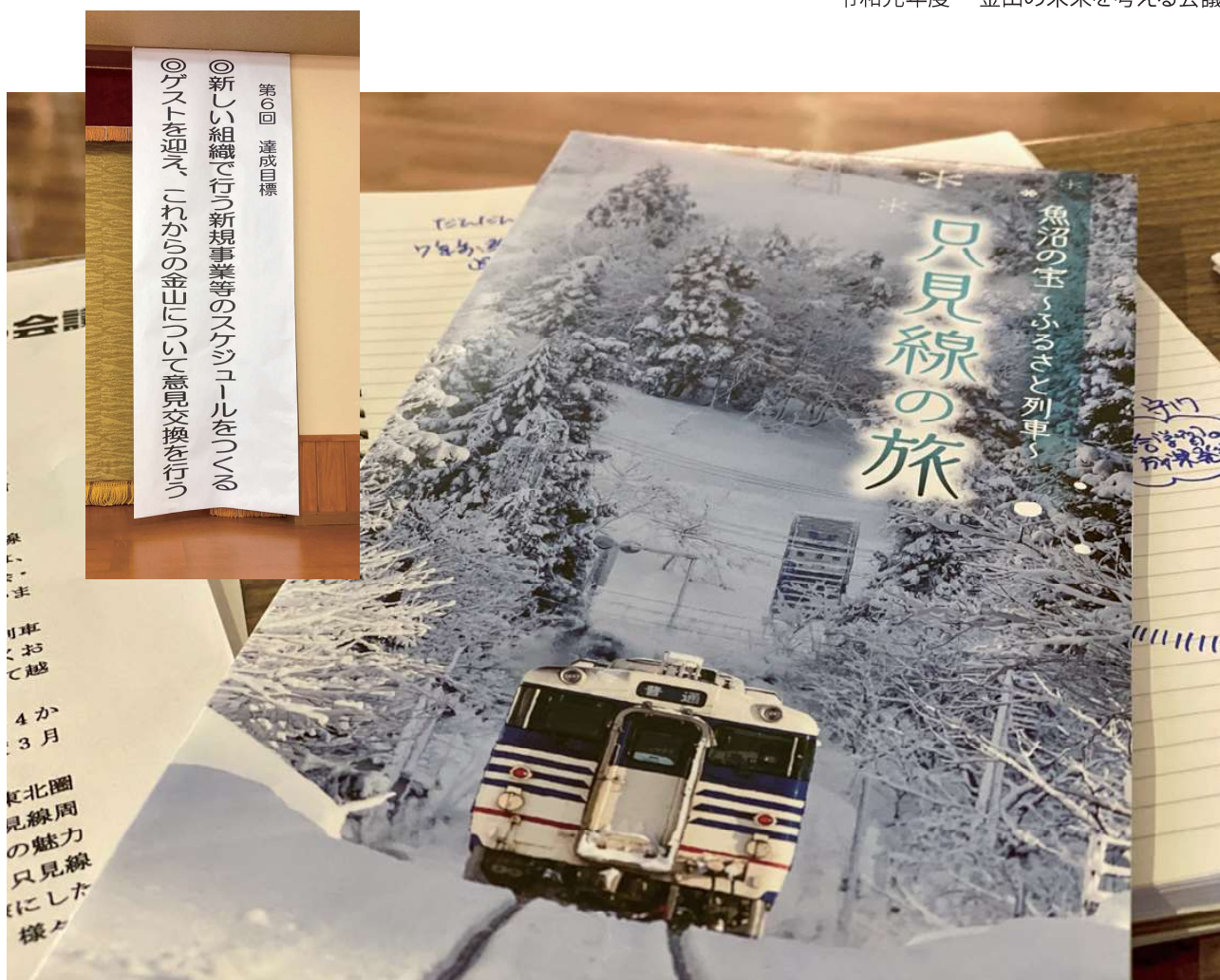


参加者の栗城さんが、SNSに寄せられた金山町の地域づくりについての意見を発表してくれた

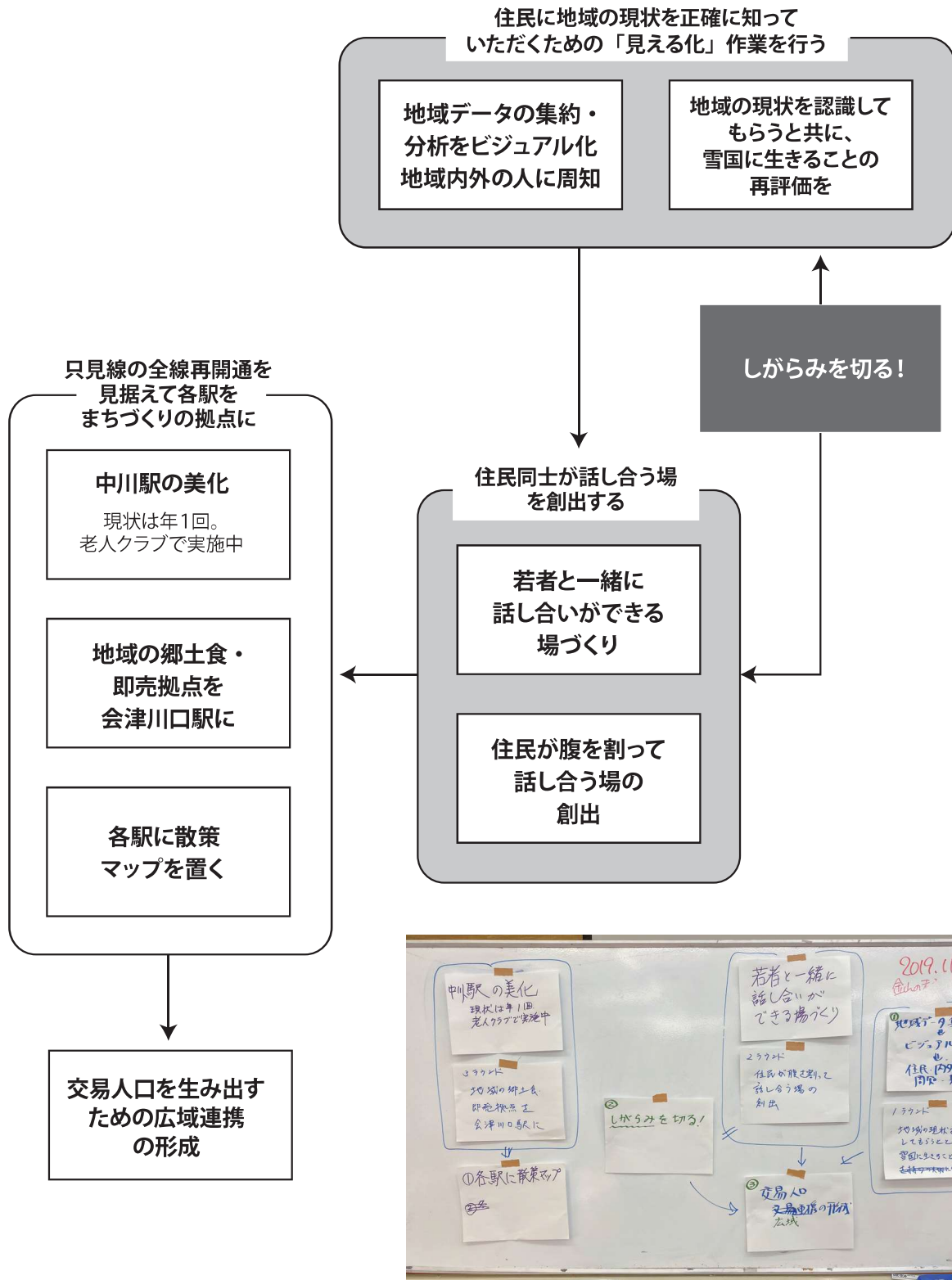


ゲストとしてお招きした魚沼市の横山正樹さんの講話風景





金山の未来を考える意見交換会で生まれたポイント

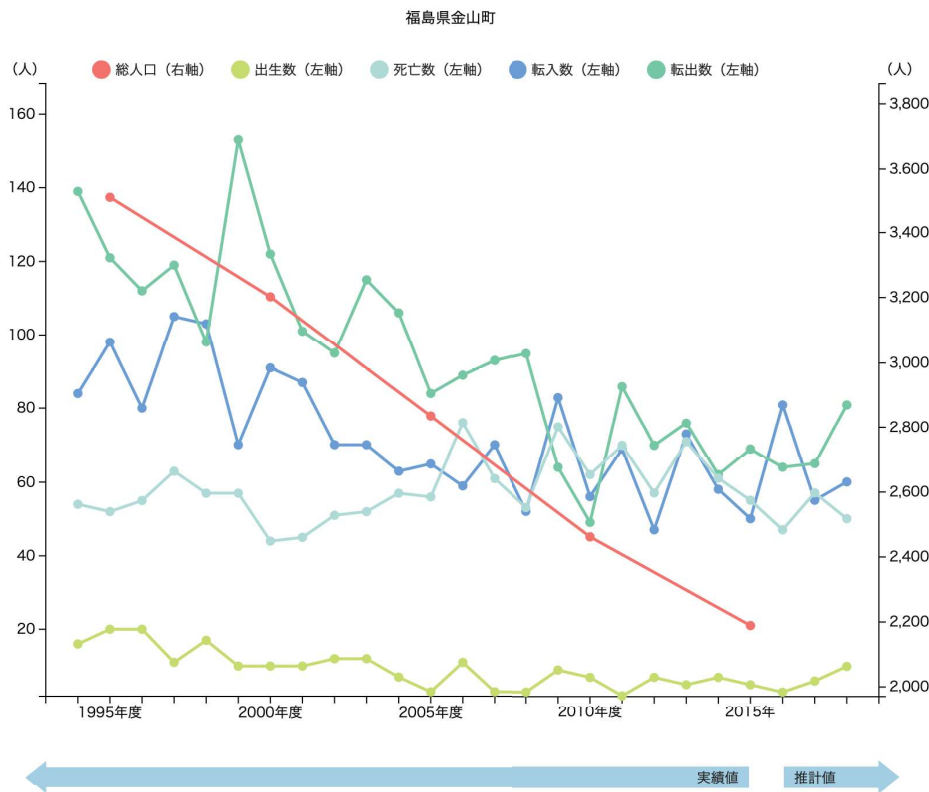


最期に各グループで意見交換の中から重要だと思われることを抜き出していた意見

講師による全体の総括

全国的に見てもこの金山町の人口減少率は高く、早急に効果的な策を講じていかないと、住民の暮らしはますます厳しいものになっていくことは、下のグラフを見ても容易に想像できます。

出生数・死亡数 / 転入数・転出数



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

こうした大きな問題が背景にあることを前提として、今回の「金山の未来を考える会議」が行われました。しかし私は地域の問題を解決していくというだけの悲壮感溢れる地域づくりを行うことには懐疑的です。もっと地域の中にあるプラスの要素、つまり地域資源を活かすことで地域の誇りや自信を取り戻し、住民の元気を生み出していくことこそ、住民主体の地域づくりの本質なのではないかと考えています。ですからこの「金山の未来を考える会議」も、できる限り参加者同士が交流することを楽しみながら、飽きずに進めていけるような工夫を随所に盛り込んで全体を進めることにしました。

最初のポイントは、みんなの思いを確認して理念を作り上げることと、地域資源を再発見・再確認することの大切さを参加者に伝えることでした。

地域資源とはその地域が持っている固有の財産であり、自然や歴史、暮らしや文化、住民の知恵や技術、情報や機会、資金やネットワークなど多岐に及んでまちの中に存在しています。

これらを再発見し、うまく磨き上げて独自の価値やアイデアを生み出して行くことが重要です。

この「金山の未来を考える会議」では、第1回での参加者の思いを統合した理念案を基に町内の資源調査を行いました。幸い地域外にも呼びかけたところ他県から7～8名の参加者があったため、資源に対する客観的な意見も得ることができました。このように資源調査は地域内外の人が混在して行うことが効果的です。

今回は大きくまちを分けた2つのコースしか設定できませんでしたが、機会があれば必ず全ての集落単位でこうしたまちあるきワークショップを行い、地域資源の調査を行って行く必要を感じています。

それと今回の「金山の未来を考える会議」で特に重要だったと感じられたのは、第4回会議で皆さんから出していただいた「要所(手の打ちどころ)」が解明されたことです。それによると、これまで様々な地域づくりを行ってきたにも関わらず、なかなか目指すべき未来に辿り着けない障害となっていた要因とは、**①住民の意識不足 ②人を育てる仕組みがない ③地元愛が育まれていない ④資源の有効活用がされていない**の4つだということが明確になりました。これは表面的な問題ではなく、金山町にとって真の問題（地域づくりを行う上での最大の阻害要因）であることに気づくことができたのです。このことはとても大きな成果だったと思います。

但し、この要因を解消していくための方法立案局面にかかる時間がやや不足気味だったため、十分な内容検討を行うことができず、やや消化不良に終わってしまいました。このへんは次年度以降に今年度発案されたプランを再検討していただく機会を持ていただければ幸いです。

また当初は想定していなかったのですが、新しい組織を作る必要性も参加者の中から出されたため、第5回目以降に検討することができたのはとても前向きで嬉しい出来事だったと思っています。

今後新たな住民組織が立ち上がるかどうかは未定ですが、今回の連続会議を通じて明らかにキーマンといえる人の顔が明確になりましたので、行政や他の民間組織等の全面的な支援体制をつくり、文字通りの「かねやま BACE」となる新しい地域づくり組織が立ち上がり、本格的な活動が展開されることを願っています。

最後に全6回（11日間）という長い連続会議であったにもかかわらず、熱心にご参加いただいた住民の方々、またこの会議を支えていただいた金山町職員の皆さんに心から感謝を申し上げます。

令和2年1月10日

総務省地域創造アドバイザー 大滝 聡

令和元年度
金山の未来を考える会議 報告書

作成日：令和 2 年 1 月
作成者：有限会社オム・クリエーション 大滝 聡
